

盛岡市人口ビジョン



平成 27 年 10 月
盛 岡 市

目次

はじめに	1
第1章 盛岡市の人口の現状	
1 本市の人口の長期的推移	2
2 国勢調査結果による人口の概況	2
3 人口動態の推移	3
4 年齢3区分別人口の推移	4
5 世帯数の推移	5
6 地区別の人口増減	6
7 東北の主要都市との比較	7
8 自然動態	8
9 社会動態	14
第2章 人口の変化が地域の将来に与える影響	
1 経済・産業への影響	18
2 医療・介護・福祉への影響	21
3 都市機能への影響	22
4 地域コミュニティへの影響	22
5 空き家問題	22
6 教育・地域文化への影響	23
7 財政への影響	24
第3章 人口の将来展望	
1 本市の人口動態の特徴	27
2 人口対策の基本的視点	28
3 人口の展望	29
4 将来人口の推計	29
資料編	
1 U I Jターンに係る意識調査結果	35
2 結婚・出産等に係る意識調査結果	53
3 新しい総合計画策定に向けたアンケート調査（抜粋）	66
4 町丁字別の人口増減の変化（変化率の高い順）	70

はじめに

本市の人口は、バブル経済期の昭和 61 年から平成元年に一時的に減少が見られたものの、長期的には一貫して増加を続けてきました。平成 12 年の 302,857 人（国勢調査：合併前の玉山村を含む。）をピークに一旦減少に転じましたが、東日本大震災が発生した平成 23 年からは、再び微増傾向にあります。

しかし、総合計画策定時（平成 26 年）の人口推計では、本市の将来人口は、平成 52（2040）年には、247,898 人となり、平成 22 年から比べると約 16.9%の減少が見込まれています。

また、年齢 3 区分別の内訳では、15 歳未満の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口が減少するものの、65 歳以上の老年人口は今後も増加し、少子高齢化が更に進行することが見込まれています。

こうした人口減少及び人口構造の変化により、地域経済の縮小や都市機能の低下、財政の硬直化など、私たちの生活のあらゆる面に影響が及ぶことが懸念されています。

人口減少及び人口構造の変化が一定程度避けられない中においては、適切な対策を講じることで、影響を最小限に食い止め、地域の活力や必要な公共サービスを維持していくことが可能です。

本市は、豊富な地域資源に恵まれていることをはじめとして、高等教育機関、救急医療機関、大規模集客施設などの都市機能が集積していること、交通の結節点であることなど、人口減少社会を見据えた地域の活性化を図る上で、多くの強みを有しており、市民総参加の取組で、積極的に未来を切り拓いていくことが必要です。

これらのことを踏まえ、今般、本市は、本市の人口対策に関する目標や具体的な施策を「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取りまとめることとしました。

この「盛岡市人口ビジョン」は、「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を検討するに当たり、本市の人口の現状を分析し、将来の展望を示すために策定するものです。

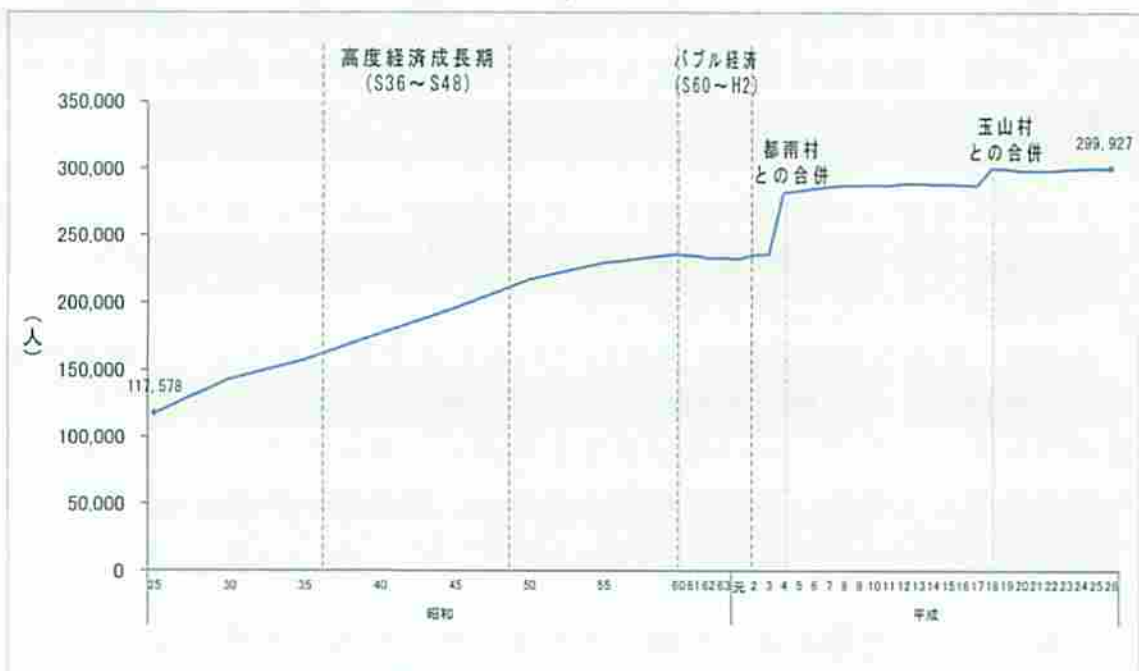
第1章 盛岡市の人口の現状

1 本市の人口の長期的推移

本市の人口は、バブル経済期の昭和61年から平成元年に一時的に減少に転じたものの、長期的には、都南村との合併（平成4年）、玉山村との合併（平成18年）を経ながら、増加を続けてきましたが、平成18年から減少に転じ、東日本大震災が発生した平成23年からは、再び微増しています。

なお、後述するように、合併前の旧都南村及び旧玉山村を含んだ数値では、平成12年が人口のピークです。

図－1 盛岡市の総人口の長期的推移



出所：国勢調査及び推計人口より本市作成

2 国勢調査結果による人口の概況

平成22年国勢調査における盛岡市の人口は298,348人となり、前回の平成17年から2,398人減少しました。人口の推移をみると、平成12年をピークに減少に転じています。また、岩手県全体の盛岡市の人口に占める割合は、平成22年は22.4%となり、昭和60年と比較すると2.4ポイント上昇しています。

表-1 国勢調査結果による人口の推移

区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	S60→H22 増加率
盛岡市	287,312	292,632	300,723	302,857	300,746	298,348	3.8%
岩手県	1,433,611	1,416,928	1,419,505	1,416,180	1,385,041	1,330,147	-7.2%
盛岡市/県 (%)	20.0	20.7	21.2	21.4	21.7	22.4	

出所：国勢調査より本市作成

※1 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

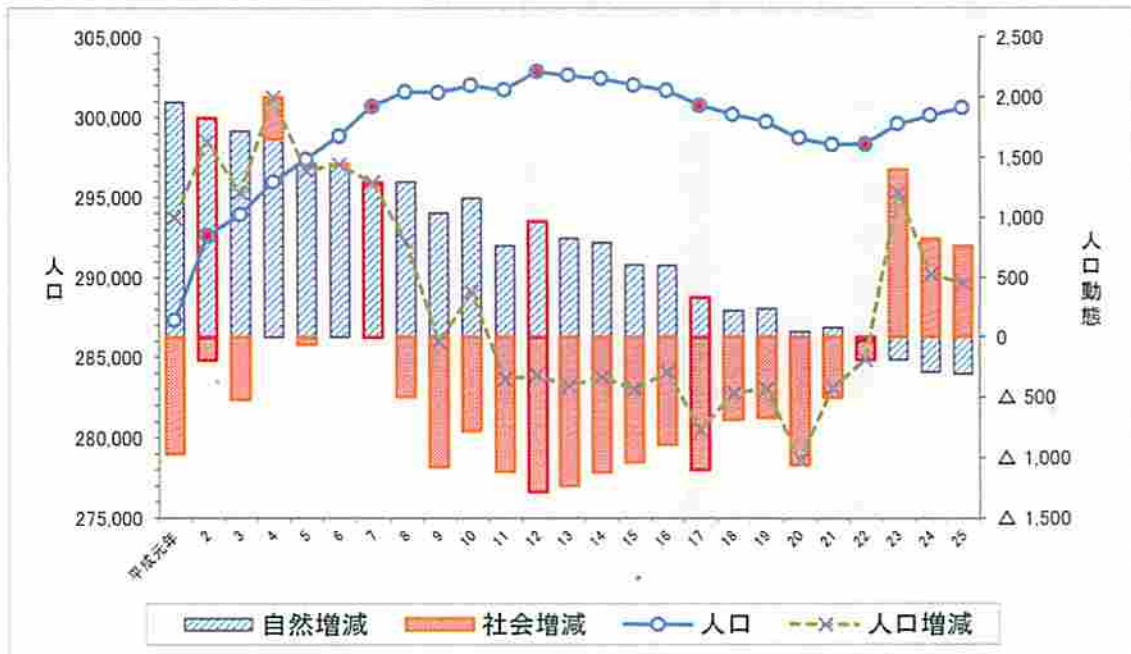
3 人口動態の推移

平成元年から25年までの盛岡市の人口は、平成12年までの堅調な推移の後、同年をピークに減少傾向でしたが、平成23年から増加に転じています。

自然動態は、平成21年までは、出生数が死亡数を上回り、その差は縮小しながらもプラスで推移していましたが、22年からマイナスに転じています。

一方、社会動態では、平成22年まではマイナスで推移していましたが、23年からプラスに転じ、23年から25年の3年間の人口増加に寄与しています。

図-2 盛岡市の人口の推移（各年10月1日現在）



出所：岩手県人口移動報告年報より本市作成

※1 人口：平成2年、7年、12年、17年及び22年は国勢調査結果。その他の年は、岩手県人口移動報告年報による推計人口（盛岡市の推計値と相違する。）

※2 人口動態：岩手県人口移動報告年報による報告値（盛岡市の集計値と相違する。）

4 年齢3区分別人口の推移

本市の年齢3区分別の人口は、15歳未満の年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口が減少する一方で、65歳以上の老年人口が増加しています。昭和60年には年少人口が22.0%、生産年齢人口が69.5%、老年人口が8.5%の人口構成でしたが、平成22年では年少人口が13.1%、生産年齢人口が65.3%、老年人口が21.6%となっており、平成12年以降は、老年人口割合が年少人口割合を上回っています。

表-2 盛岡市の年齢3区分別人口の推移

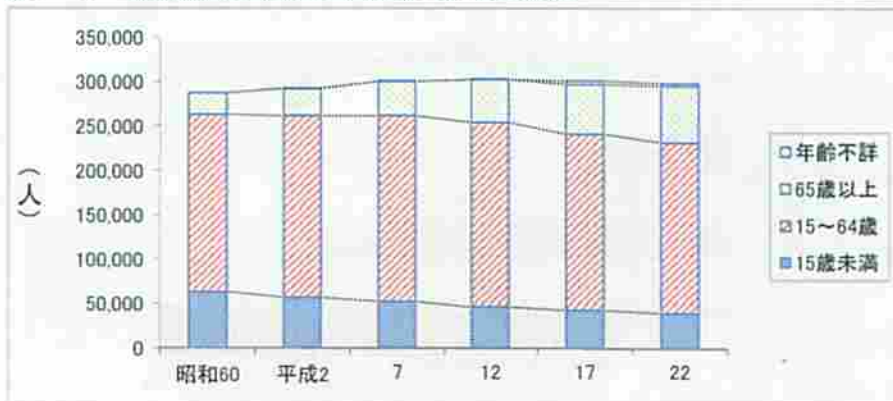
区分		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
15歳未満(人)		63,222	56,718	52,092	46,159	41,928	38,771
15~64歳(人)		199,774	204,943	209,262	208,171	199,632	192,664
65歳以上(人)		24,316	30,826	39,341	48,469	56,177	63,721
年齢不詳(人)		0	145	28	58	3,009	3,192
構成	15歳未満(%)	22.0%	19.4%	17.3%	15.2%	14.1%	13.1%
	15~64歳(%)	69.5%	70.1%	69.6%	68.7%	67.0%	65.3%
	65歳以上(%)	8.5%	10.5%	13.1%	16.0%	18.9%	21.6%

出所：国勢調査より本市作成

※1 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

※2 構成割合：年齢不詳は除く。

図-3 盛岡市の年齢3区分別人口の推移



出所：国勢調査より本市作成

※ 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

5 世帯数の推移

国勢調査結果によると、平成22年の一般世帯数は124,839世帯となっており、増加傾向にあります。

平成22年の一般世帯のうち、高齢単独世帯は、9,479世帯で昭和60年と比較して約5倍に増加しています。

表-3 盛岡市の一般世帯数の推移

区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
一般世帯数	97,643	103,919	112,913	119,040	118,989	124,839
うち高齢夫婦世帯数	2,663	4,058	5,907	7,929	9,292	10,484
うち高齢単独世帯数	1,941	2,966	4,298	6,109	7,609	9,479

出所：国勢調査より本市作成

※ 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

図-4 盛岡市の一般世帯数の推移



出所：国勢調査より本市作成

※ 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

6 地区別の人口増減

本市の地区別の人口は、土淵地区や本宮地区などで増加数、増加率とも高い伸びを示していますが、全体としては、減少している地域が多くなっています。

表－4 地区別の人口増減の変化（変化率の高い順）

	地区名	2006年	2015年	増減数	変化率
1	土淵	2,968	4,590	1,622	154.6%
2	本宮	13,485	18,249	4,764	135.3%
3	見前	23,344	25,069	1,725	107.4%
4	飯岡	16,541	17,475	934	105.6%
5	桜城	11,668	12,283	615	105.3%
6	仙北	14,104	14,467	363	102.6%
7	城南	10,697	10,865	168	101.6%
8	山岸	12,629	12,680	51	100.4%
9	みたけ	7,792	7,818	26	100.3%
10	緑が丘	13,528	13,569	41	100.3%
11	中野	12,816	12,754	-62	99.5%
12	東厨川	11,414	11,270	-144	98.7%
13	太田	8,241	8,127	-114	98.6%
14	杜陵	5,241	5,124	-117	97.8%
15	仁王	11,786	11,460	-326	97.2%
16	繫	902	865	-37	95.9%
17	渋民	5,892	5,648	-244	95.9%
18	西厨川	12,196	11,646	-550	95.5%
19	青山	23,006	21,455	-1,551	93.3%
20	好摩	4,316	4,011	-305	92.9%
21	上田	15,507	14,366	-1,141	92.6%
22	乙部	8,737	8,019	-718	91.8%
23	加賀野	5,828	5,312	-516	91.1%
24	大慈寺	5,374	4,892	-482	91.0%
25	上米内	6,064	5,465	-599	90.1%
26	松園	18,939	16,841	-2,098	88.9%
27	築川	1,631	1,385	-246	84.9%
28	巻堀・姫神	1,429	1,184	-245	82.9%
29	北厨川	6,776	5,554	-1,222	82.0%
30	玉山・藪川	2,067	1,629	-438	78.8%
	合計	294,918	294,072	-846	99.7%

出所：住民基本台帳（2006年1月末及び2015年3月末）より本市作成

※ データ上の制約から、各地区に含まれる町丁・字は、コミュニティ推進地区と、完全には一致しない。

※ 町丁・字などの地区ごとの資料は、巻末の資料編に記載。

7 東北の主要都市との比較

平成17年及び22年の国勢調査から東北の主要都市の人口の推移を比較すると、仙台市のみ人口が増加し、本市は、0.8%の減少ですが、他の都市に比べて減少幅が少ない水準となっています。

なお、本統計データ（図-5）は、東日本大震災以前のものであることから、震災後の人口の変化に留意する必要があります。

図-5 東北主要都市との人口及び人口の増減率の比較



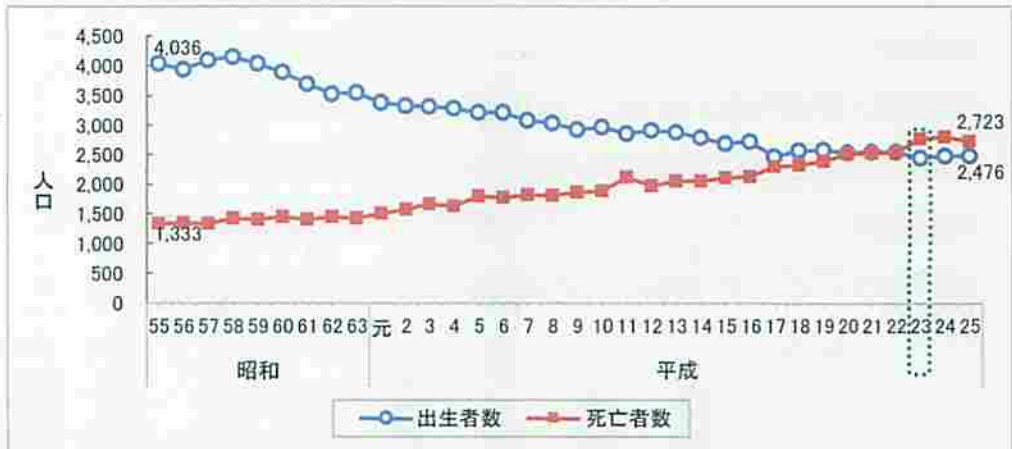
出所：国勢調査より本市作成

8 自然動態

本市の自然動態は、長期に渡ってプラスを維持しつつも出生者数の減少と死亡者数の増加が同時に進行し、プラス幅は年々減少傾向にあったところ、平成 23 年にマイナスに転じました。

なお、本統計は、各年 1 月 1 日から 12 月 31 日までを調査期間としており、10 月 1 日を基準日とする統計とは相違があります（図－2 参照）。

図－6 盛岡市の出生者数と死亡者数



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

合計特殊出生率（15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの）は、長期に渡って減少傾向にあったところ、平成 18 年に上昇に転じ、平成 25 年度には 1.33 となっていますが、それでも全国及び岩手県の値を下回る水準です。今後、合計特殊出生率の対象となる 15 歳から 49 歳までの女性の人数の減少が見込まれることや晩婚化、未婚率の上昇などを背景に、出生数は減少していくものと見込まれます。

図－7 合計特殊出生率の推移



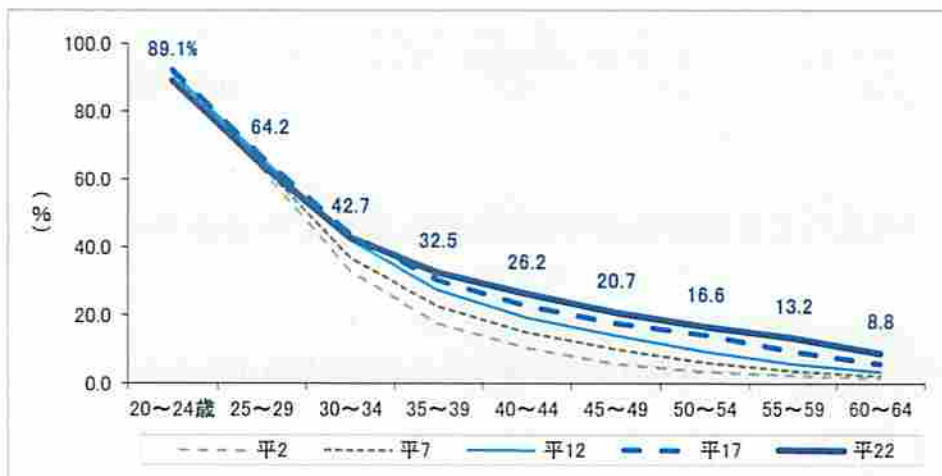
出所：岩手県人口動態統計より本市作成

図－8 初婚年齢の推移



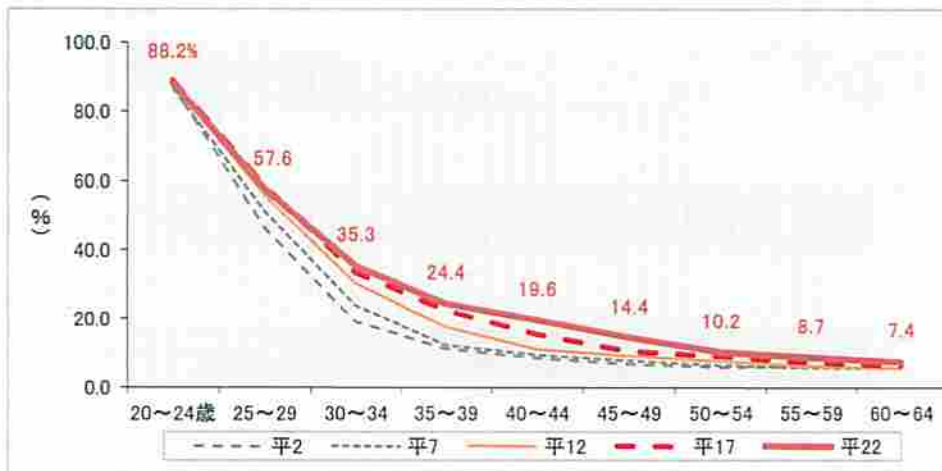
出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

図－9－1 盛岡市の年代別未婚率（男性）



出所：国勢調査より本市作成

図－9－2 盛岡市の年代別未婚率（女性）



出所：国勢調査より本市作成

本市の女性人口は、20～39歳の結婚・妊娠・出産の中心となる年代、さらにそれに続く、0歳～19歳の年代で減少傾向にあります。

図-10 盛岡市の女性人口の推移



出所：国勢調査より本市作成

※「年齢不詳」は除いている。

東北の主要都市及び中核市（47市）との合計特殊出生率の比較では、本市は、38番目の低い水準です。

図-11 東北の主要都市及び中核市との合計特殊出生率の比較



出所：平成20～24年人口動態保健所・市町村別統計より本市作成

本市からの主な転出先（100人以上転出している都道府県）は、岩手県より給与額（月額）が高い地域が多く、また、岩手県より合計特殊出生率が低い地域が多くなっています。

図-12 盛岡市からの主な転出先の給与額（月額）と合計特殊出生率



出所：平成26年厚生労働省「賃金構造基本調査」、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」及び厚生労働省「人口動態統計」より本市作成

岩手県の子育て世代（20代～30代）の所得は、全国の傾向と同様に低下傾向にあります。

図-13-1 収入階級別雇用者数（岩手県・20代男性）



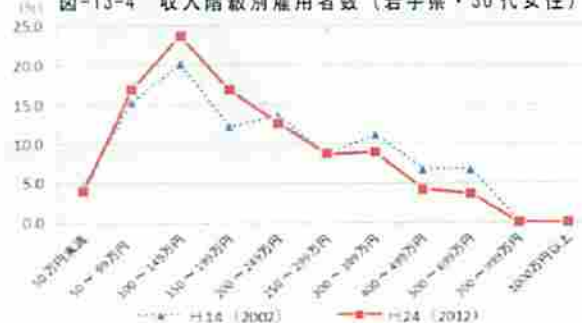
図-13-2 収入階級別雇用者数（岩手県・20代女性）



図-13-3 収入階級別雇用者数（岩手県・30代男性）

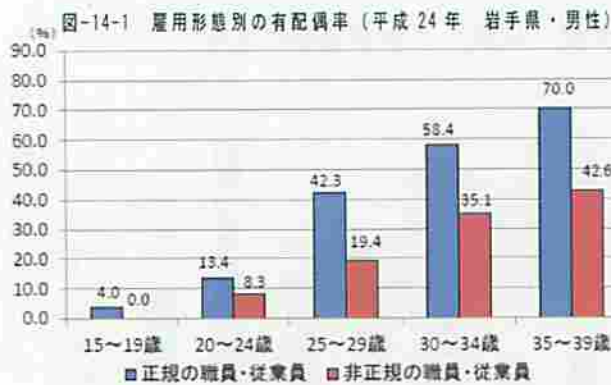


図-13-4 収入階級別雇用者数（岩手県・30代女性）



出所：いずれも「就業構造基本調査」より岩手県作成

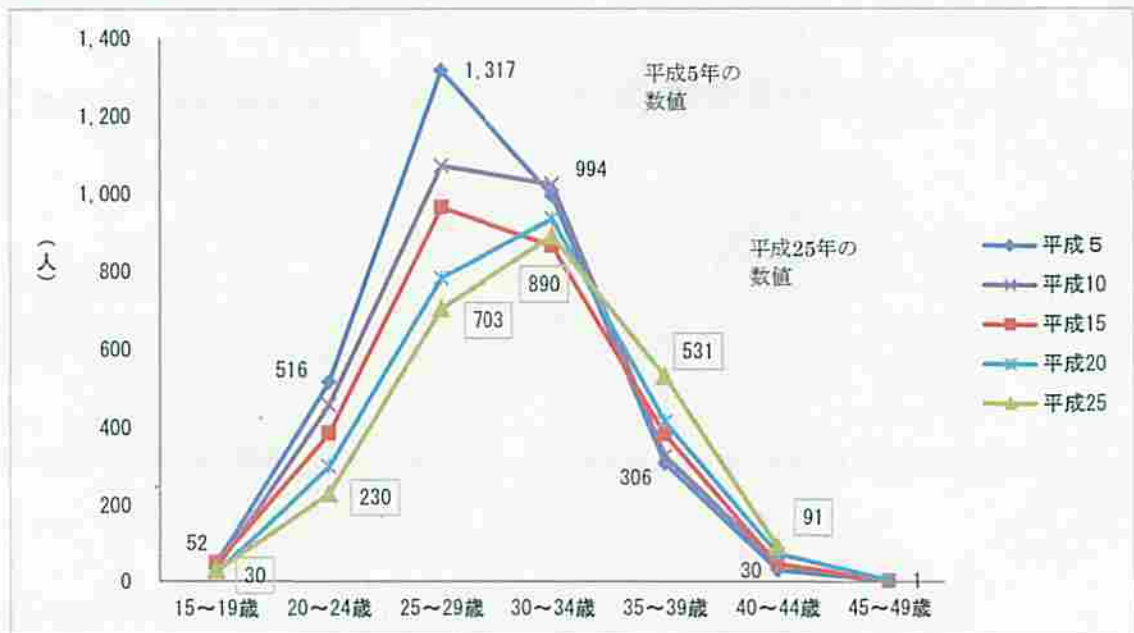
岩手県の男性の非正規の職員・従業員は、全国の傾向と同様に、正規の職員・従業員より有配偶率が低くなっています。



出所：いずれも「就業構造基本調査」より岩手県作成

本市の年齢別出生数は、15歳から34歳までの年代で減少傾向にあり、35歳から44歳までの年代で増加傾向にあります。これは、昭和46年から49年生まれの、いわゆる団塊世代のジュニアといわれる世代が結婚・出産の年代を迎えたことによるものと考えられ、今後は、この年代においても出生数は減少することが予想されます。

図-15 盛岡市の年齢別出生数



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

本市の出産順位別出生数は、第3児以降で横ばい傾向が見られますが、全体としては、減少する傾向にあります。

図-16 盛岡市の出産順位別出生数



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

全国の完結出生児数（結婚持続期間15～19年の夫婦の平均出生子ども数）は、長年2.2人程度で安定していたところ、2010年に初めて2.0人を下回りました。

図-17 全国の完結出生児数



出所：平成22年・国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」

9 社会動態

本市の社会動態は、平成7年以降、500～1,000人規模の流出超過が続いてきましたが、平成23年以降流入超過に転じています。これは、東日本大震災に起因して、沿岸部等から避難者・移住者が流入してきていることや転出数が減少していることによるものと考えられます。

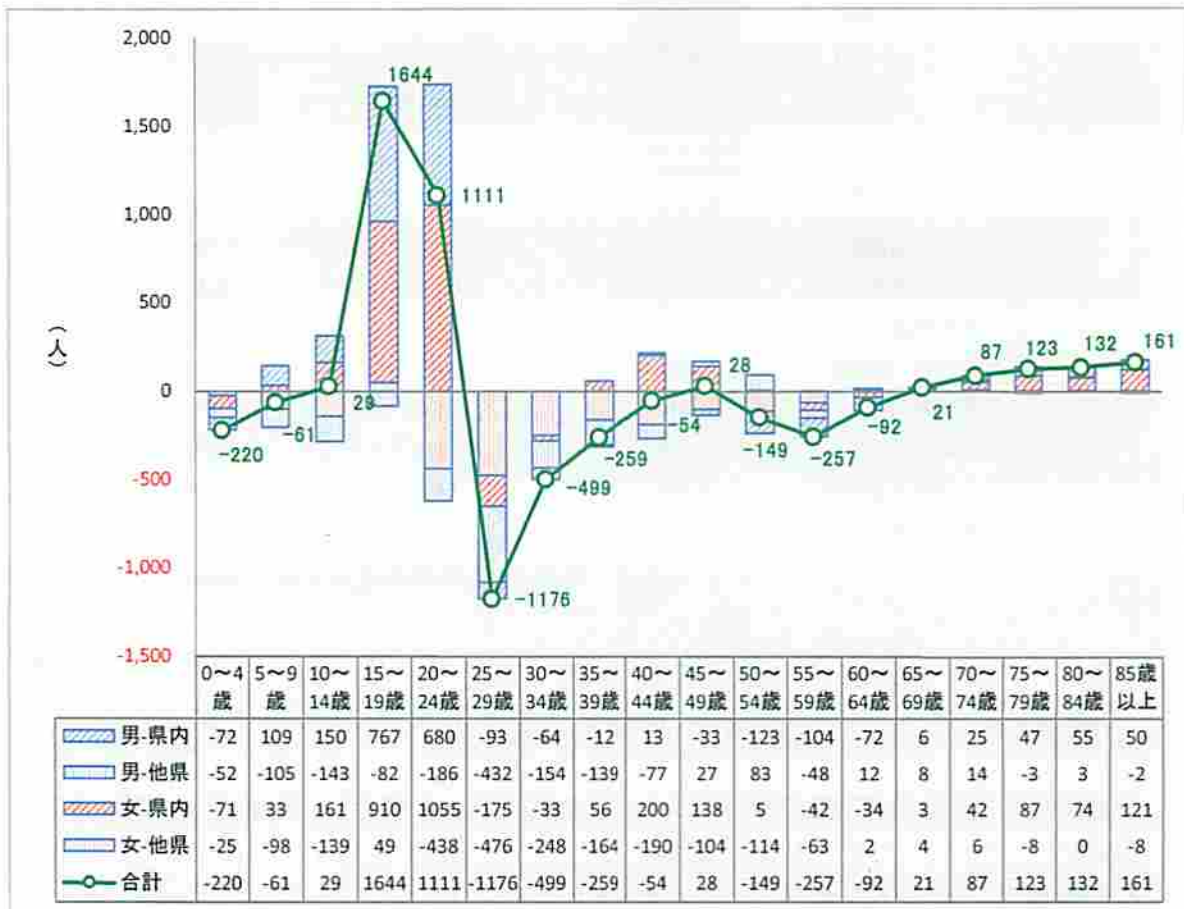
図-18 盛岡市の社会増減の推移



出所：戸籍・住民基本台帳関係資料より本市作成

年齢別及び地域別の社会増減では、15歳から24歳までの高校・大学等への進学期に県内他地域からの流入が顕著となり、25歳から34歳までの就職期、結婚・出産期に、県外及び県内他地域、男女のすべての区分で転出超過となっています。また、移動数は少ないものの65歳以上の世代で、流入超過となっています。

図-19 盛岡市の年齢別地域別社会移動の状況



出所：平成22年国勢調査より本市作成

地域別の社会移動をさらに詳しく見ると、男女ともに県内他地域及び青森県・秋田県に対して流入超過となっており、一方で、宮城県・首都圏に対して流出超過となっています。

図-20 盛岡市の移動地域別社会移動



出所：平成 22 年国勢調査より㈱日本経済研究所作成

本市への転入者の主な理由を年代別に見ると、20代から50代では「転勤」で移動する割合が最も高く、仕事上の理由で移動する割合が高くなっています。

仕事の関係以外の理由を見ると、10代では「進学・卒業等」の割合が最も高く、20代、30代では「結婚・離婚」の割合が高く、40代から60代で「住宅事情」の割合が高くなっています。

表-5 年代別の異動の主な理由（盛岡市に転入）

区分	総数	異動の主な理由								
		仕事の関係				進学・卒業等	結婚・離婚	家族と同居	住宅事情	その他
		転勤	転業・転職	就職	家業後継					
10代	65 (100.0)	2 (3.1)	3 (4.6)	8 (12.3)	0 (0.0)	42 (64.6)	0 (0.0)	2 (3.1)	3 (4.6)	5 (7.7)
20代	624 (100.0)	165 (26.4)	129 (20.7)	119 (19.1)	2 (0.3)	35 (5.6)	73 (11.7)	28 (4.5)	34 (5.4)	39 (6.3)
30代	464 (100.0)	247 (53.2)	58 (12.5)	7 (1.5)	3 (0.6)	5 (1.1)	56 (12.1)	20 (4.3)	39 (8.4)	29 (6.3)
40代	245 (100.0)	161 (65.7)	18 (7.3)	4 (1.6)	0 (0.0)	4 (1.6)	8 (3.3)	8 (3.3)	22 (9.0)	20 (8.2)
50代	131 (100.0)	73 (55.7)	10 (7.6)	2 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.1)	7 (5.3)	19 (14.5)	16 (12.2)
60代	24 (100.0)	1 (4.2)	3 (12.5)	2 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.3)	4 (16.7)	7 (29.2)	5 (20.8)
70歳以上	8 (100.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	4 (50.0)
合計	1,561 (100.0)	650 (41.6)	222 (14.2)	142 (9.1)	5 (0.3)	86 (5.5)	143 (9.2)	70 (4.5)	125 (8.0)	118 (7.6)

出所：平成 21 年盛岡市人口移動理由実態調査報告書

本市からの転出者の主な理由を年代別に見ると、20代では「就職」で移動する割合が最も高く、30代から50代では「転勤」で移動する割合が最も高く、仕事上の理由で移動する割合が高くなっています。

仕事の関係以外の理由を見ると、10代では「進学・卒業等」の割合が最も高く、20代、30代では「結婚・離婚」の割合が高く、40代から50代で「住宅事情」の割合が高く、60代以上で「家族と同居」の割合が高くなっています。

表-6 年代別の異動の主な理由（盛岡市から転出）

区分	総数	異動の主な理由								
		仕事の関係				進学・卒業等	結婚・離婚	家族と同居	住宅事情	その他
		転勤	転業・転職	就職	家業後継					
10代	133 (100.0)	2 (1.5)	2 (1.5)	39 (29.3)	0 (0.0)	78 (58.6)	4 (3.0)	7 (5.3)	0 (0.0)	1 (0.8)
20代	723 (100.0)	168 (23.2)	102 (14.1)	197 (27.2)	5 (0.7)	33 (4.6)	87 (12.0)	51 (7.1)	40 (5.5)	40 (5.5)
30代	472 (100.0)	241 (51.1)	61 (12.9)	8 (1.7)	3 (0.6)	2 (0.4)	54 (11.4)	39 (8.3)	47 (10.0)	17 (3.6)
40代	237 (100.0)	143 (60.3)	28 (11.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	4 (1.7)	11 (4.6)	19 (8.0)	20 (8.4)	10 (4.2)
50代	153 (100.0)	84 (54.9)	17 (11.1)	0 (0.0)	3 (2.0)	1 (0.7)	5 (3.3)	7 (4.6)	23 (15.0)	13 (8.5)
60代	50 (100.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	0 (0.0)	3 (6.0)	0 (0.0)	1 (2.0)	17 (34.0)	10 (20.0)	12 (24.0)
70歳以上	21 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (66.7)	1 (4.8)	6 (28.6)
合計	1,789 (100.0)	642 (35.9)	213 (11.9)	245 (13.7)	15 (0.8)	118 (6.6)	162 (9.1)	154 (8.6)	141 (7.9)	99 (5.5)

出所：平成21年盛岡市人口移動理由実態調査報告書

1 経済・産業への影響

人口減少・少子高齢化による生産年齢人口の減少は、産業の担い手の減少や消費の縮小などを招き、経済成長にブレーキをかける大きな要因となります。

経済産業省の地域経済研究会報告書（平成17年）によれば、本市を中心とする経済圏域の平成42（2030）年の域内総生産は、平成12（2000）年との比較で、4.9%減少するものと試算されています。

特に、経済圏域内の住民や法人の需要に応える第3次産業中心の本市経済は、人口の増加に支えられて発展してきた側面がありますが、地域経済研究会報告書においても、域内市場の産業生産額はマイナスが見込まれています。

表-7 東北6都市の地域経済の将来推計 (単位：億円，%)

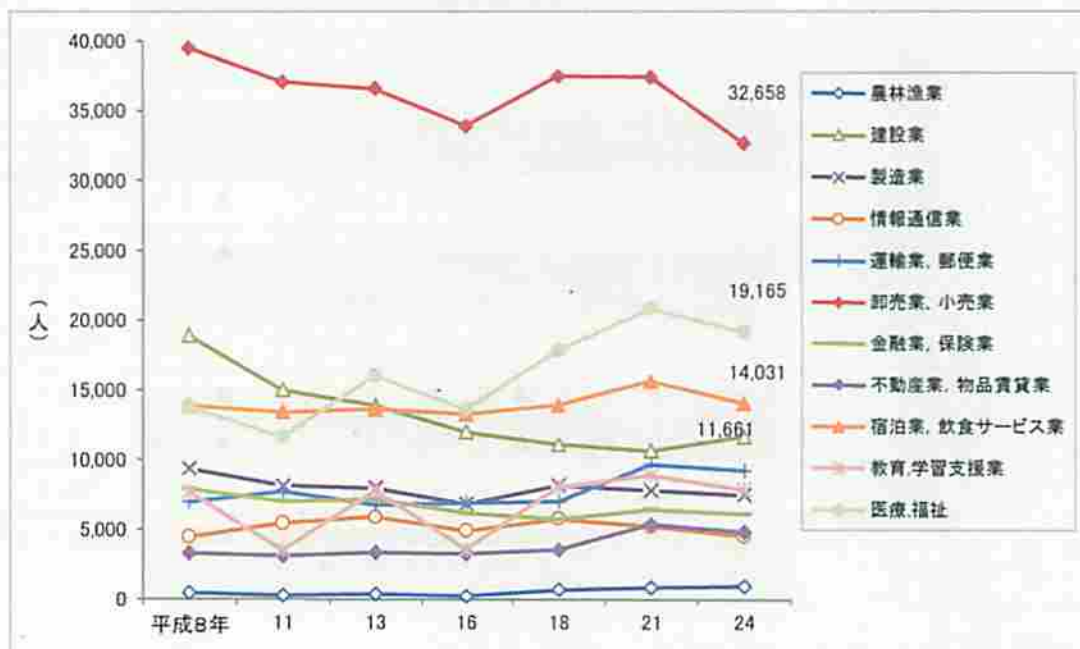
都市圏名	域内総生産			域外市場産業生産額変化率	域内市場産業生産額変化率	人口変化率
	2000年	2030年	変化率			
青森市	12,702	10,708	-15.7	-16.0	-15.6	-24.4
秋田市	17,764	15,211	-14.4	-15.8	-14.0	-23.0
盛岡市	19,515	18,568	-4.9	3.0	-6.8	-16.0
仙台市	64,149	66,905	4.3	11.0	2.2	-8.8
山形市	18,769	17,137	-8.7	-7.7	-9.0	-16.9
福島市	15,893	15,484	-2.6	-2.3	-2.7	-13.8

出所：平成17年経済産業省「地方経済研究会報告書」

本市の産業別従事者数を見ると、卸売業、小売業が突出して高い水準にあるものの、近年医療・福祉関係の従事者が増加傾向にあり、全体の構成比も高まってきています。

今後、高齢化の進行に伴い、医療・介護などのサービスの需要が高まることが予想されると同時に、これらを担う人材が不足していくことも懸念されます。

図-21 盛岡市の産業別従業者数の推移



出所：総務省「事業所・企業統計調査報告」、総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」より本市作成

盛岡地区の求人数のうち正社員の求人割合は、他地区と比較して低い水準にあります。これは、非正規職員の労働者が多い第3次産業中心の産業構造を反映しているものと思われます。

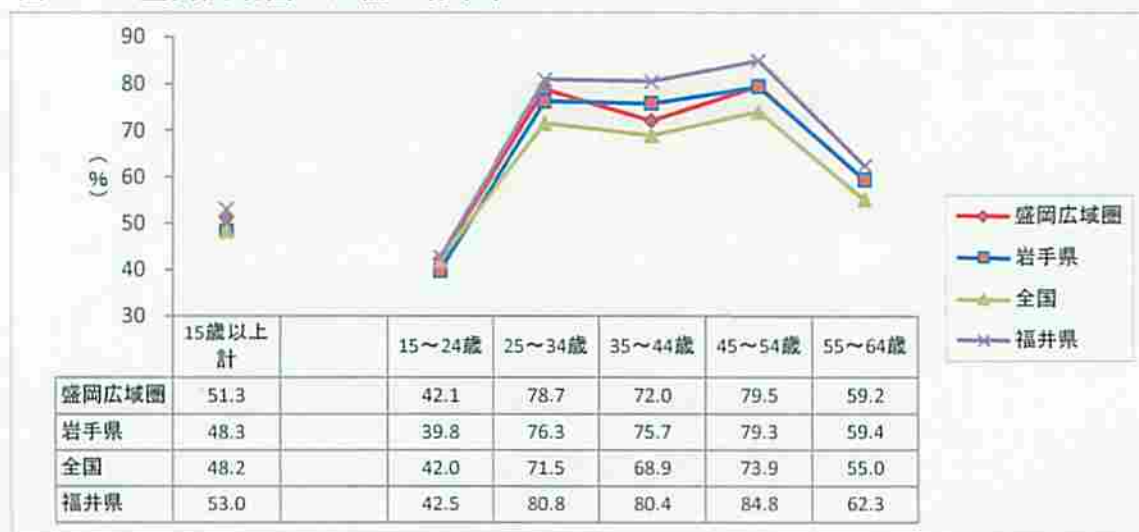
表－8 公共職業安定所管内ごとの有効求人倍率

項目 所別	有効求人倍率(倍)			正社員構成比(%)			
	全体	うち正社員		新規求人数に占める割合		就職件数に占める割合	
		前年同月差	前年同月差	前年同月差	前年同月差	前年同月差	前年同月差
盛岡	1.01	0.52	0.05	34.1	▲ 3.2	34.7	0.7
釜石	1.08	0.69	0.00	48.0	10.8	38.2	0.8
宮古	1.33	0.90	0.22	41.1	0.5	27.1	▲ 1.0
花巻	1.19	0.62	0.08	32.6	▲ 1.8	38.4	2.1
一関	1.16	0.71	0.17	40.2	▲ 0.2	32.7	▲ 0.7
水沢	1.03	0.61	0.17	40.6	3.0	37.4	▲ 1.9
北上	1.79	0.82	0.31	28.4	3.2	33.1	1.3
大船渡	1.55	0.92	▲ 0.16	39.6	▲ 1.2	38.6	4.1
二戸	0.81	0.39	▲ 0.05	30.0	▲ 2.6	26.7	▲ 3.4
久慈	0.82	0.44	0.10	34.2	0.9	26.5	2.0

出所：岩手労働局資料（平成27年6月）より本市作成

盛岡広域圏の女性の有業率は、全年齢合計では全国平均を大きく上回っていますが、年齢別で見ると、35～44歳の子育て世代では、岩手県の平均より低く、また、全国一位の福井県とも差があります。

図－22 盛岡広域圏の女性の有業率



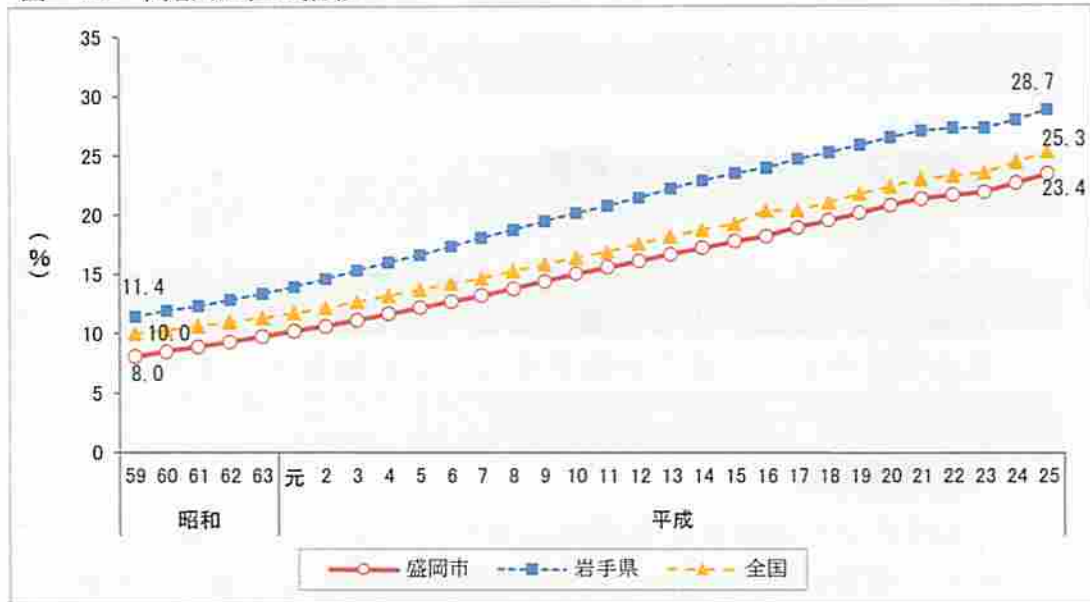
出所：「平成24年就業構造基本調査」より、財団法人日本経済研究所作成

2 医療・介護・福祉への影響

本市の高齢化率は、全国、岩手県と比較して低い水準にはあるものの、上昇傾向にあります。また、総人口が減少傾向にある中で老年人口は、増加しています。

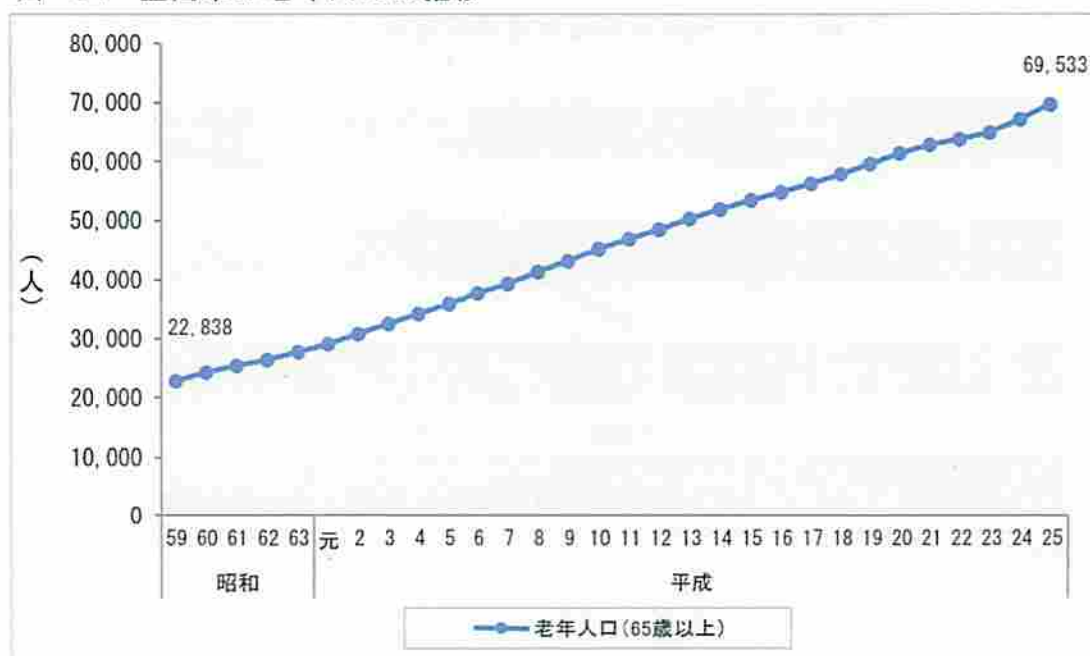
これに伴い、今後、医療・介護などの公共サービスの需要は、高まっていくものと考えられます。

図-23 高齢化率の推移



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

図-24 盛岡市の老年人口の推移



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

3 都市機能への影響

高等教育機関、救急病院、百貨店などの都市機能が維持されるためには、一定の商圈規模、マーケットと、それらを支える人口が必要となります。

都市機能の縮小に伴ってまちの魅力が減退すると、若年層を中心とした人口の流出を招くおそれがあります。

また、人口の減少は、購買力の低下、サービスを受ける者の減少等につながり、本市の雇用の8割以上を占める小売・サービス業等の第3次産業による雇用の減少をもたらし、本市経済の衰退を加速してしまうおそれがあります。

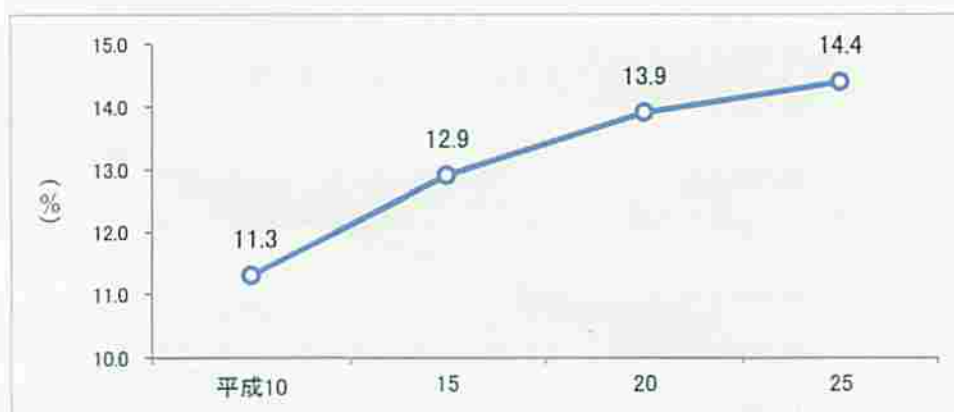
4 地域コミュニティへの影響

人口減少及び人口構造の変化が一因となって地域コミュニティは、都市部においては、単身世帯の増加や住環境・生活様式の変化、農村部においては、人口流出による影響など、それぞれの事情により、活動の担い手の減少などを招き、活力が低下することが懸念されます。

5 空き家問題

本市の空き家率は上昇傾向にあり、今後、人口の減少が進むことにより空き家の増加が懸念されます。空き家の長期的な放置は、景観の悪化のみならず放火や不法投棄の危険性が増すことにもなり、地域の住民にとっては、深刻な問題です。

図-25 盛岡市の空き家率の推移



出所：総務省統計局「住宅・土地統計調査報告」より本市作成

6 教育・地域文化への影響

児童・生徒が減少することにより、学級数や部活動の種類が減少が進行するなどの教育環境への影響が更に強まることが懸念されます。

また、少子化の影響などにより、伝統芸能・伝統行事などを継承する担い手の不足が懸念されます。

表－9 盛岡市の学校児童生徒数推移

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数	児童数 生徒数	学級数
小学校計	15,027	519	14,922	508	14,690	500	14,529	496	14,443	495	14,403	495	14,495	504
増減(対前年)	-231	-12	-105	-11	-232	-8	-161	-4	-86	-1	-40	0	92	9
増減(対H24)	-	-	-336	-23	-337	-19	-498	-23	-584	-24	-624	-24	-532	-15
中学校計	7,634	236	7,602	229	7,560	230	7,604	232	7,534	233	7,419	227	7,119	216
増減(対前年)	-33	-3	-32	-7	-42	1	44	2	-70	1	-115	-6	-300	-11
増減(対H24)	-	-	-32	-7	-74	-6	-30	-4	-100	-3	-215	-9	-515	-20

出所：平成24年盛岡市小中学校適性配置計画
 ※将来推計：平成24年度は、学校基本調査数値。平成25年度以降は、平成24年5月1日現在の住民登録に基づく就学前児童数

7 財政への影響

(1) 財政の硬直化

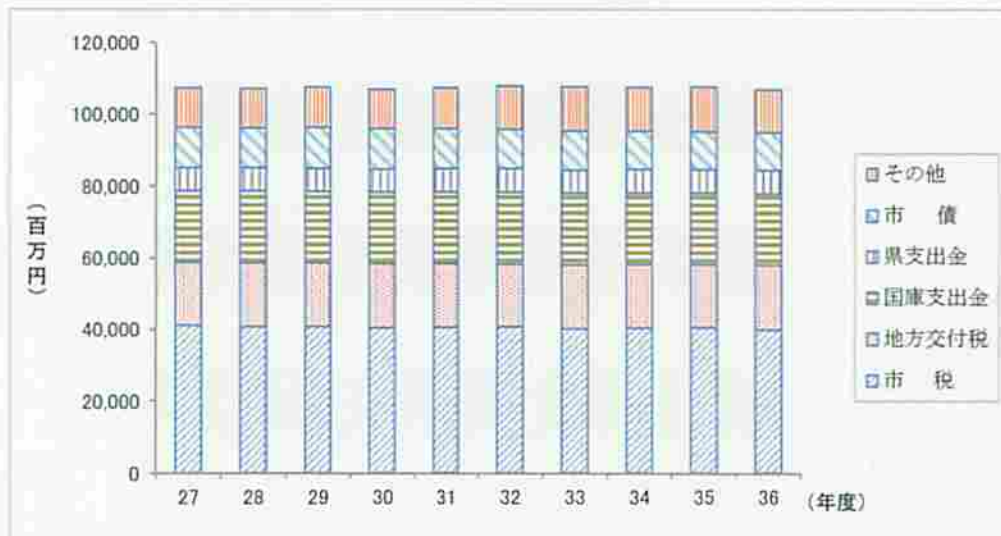
人口減少・少子高齢化の進行は、就業人口の減少に伴い税収が減少する一方で、介護・福祉などの需要の増加などが見込まれ、財政の硬直化が進むおそれがあります。

表-10 盛岡市の財政見通し（歳入） (単位：百万円)

年 度	市 税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	市 債	そ の 他	合 計
27	40,962	17,760	19,997	6,271	11,320	10,872	107,182
28	40,662	17,758	20,198	6,305	11,167	10,965	107,055
29	40,723	17,706	20,056	6,347	11,411	11,276	107,519
30	40,315	17,918	20,088	6,372	11,287	10,868	106,848
31	40,492	17,726	20,127	6,397	11,165	11,352	107,259
32	40,667	17,489	20,171	6,424	11,043	12,085	107,879
33	40,126	17,837	20,114	6,434	10,926	12,179	107,616
34	40,326	17,741	20,062	6,446	10,810	12,031	107,416
35	40,510	17,568	20,015	6,459	10,698	12,472	107,722
36	40,009	17,945	19,970	6,473	10,586	11,950	106,933

出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26年9月）

図-26 盛岡市の財政見通し（歳入）



出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26年9月）

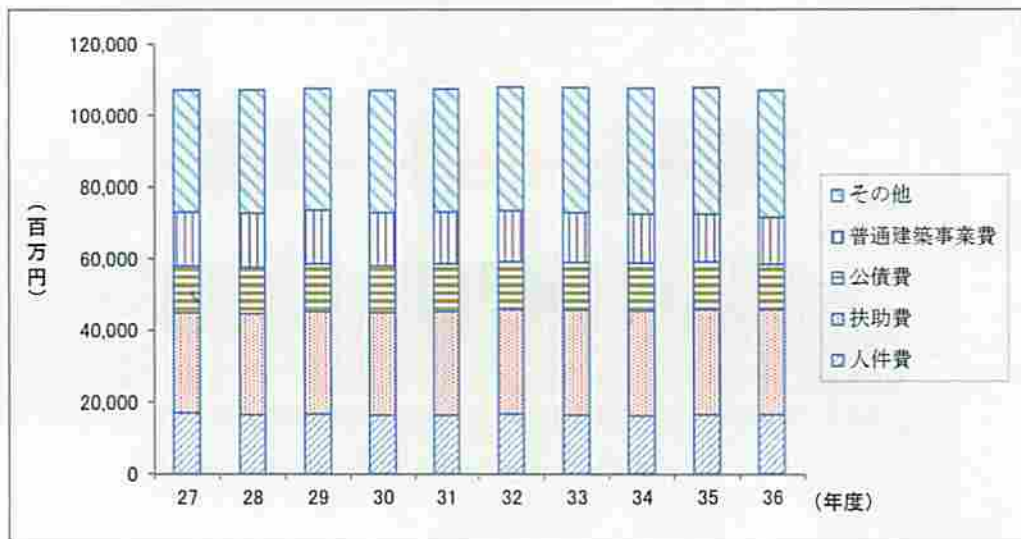
表-11 盛岡市の財政見通し（歳出）

（単位：百万円）

年度	人件費	扶助費	公債費	普通建設事業費	その他	合計
27	16,972	27,855	13,126	15,118	34,111	107,182
28	16,546	28,086	13,003	15,118	34,302	107,055
29	16,741	28,323	13,415	15,118	33,922	107,519
30	16,257	28,567	13,247	14,816	33,961	106,848
31	16,356	28,817	13,330	14,520	34,236	107,259
32	16,694	29,073	13,387	14,230	34,495	107,879
33	16,383	29,121	13,399	13,945	34,768	107,616
34	16,100	29,171	13,517	13,666	34,962	107,416
35	16,560	29,226	13,375	13,393	35,168	107,722
36	16,431	29,284	12,711	13,125	35,382	106,933

出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26年9月）

図-27 盛岡市の財政見通し（歳出）



出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26年9月）

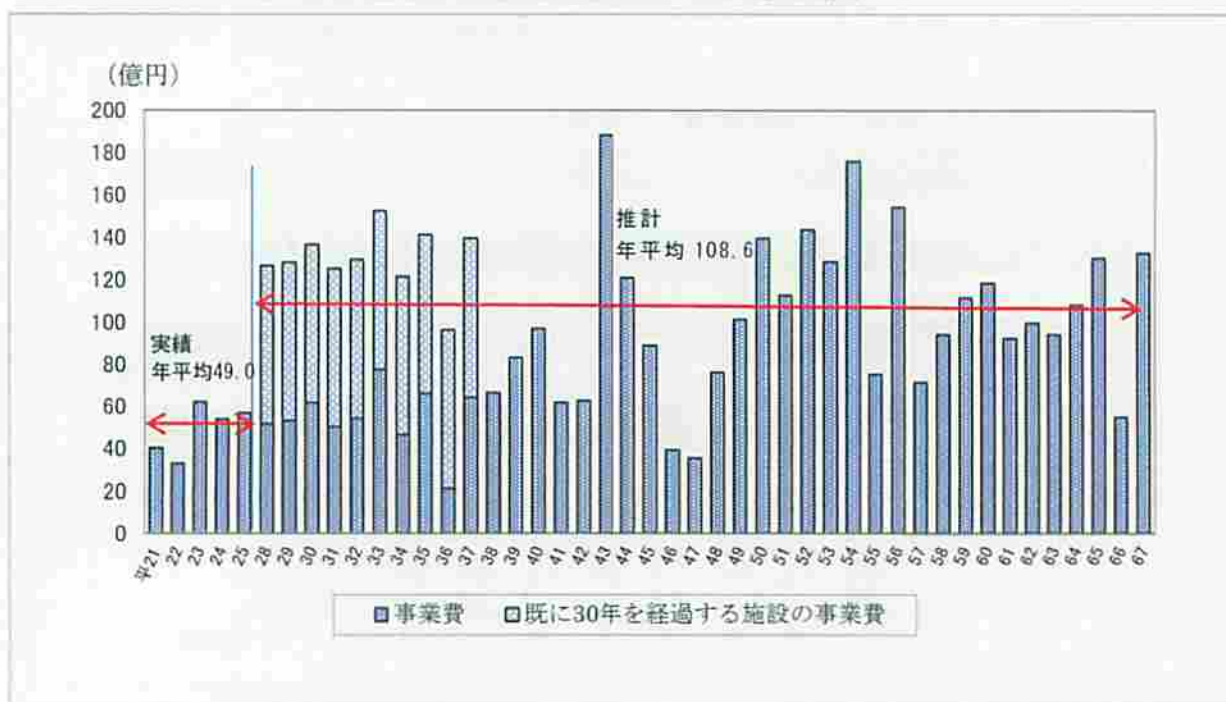
※財政見通しを推計するに当たっての人口は、後述する新しい総合計画策定時の推計値を用いている。

(2) 公共施設の維持管理・更新等

本市の施設は、高度経済成長とともに昭和35（1960）年頃から建設が増え、現在まで多くの建設を行っています。今後、築50年を超える施設が年々増加していくこととなり、施設の更新需要が増嵩することが見込まれますが、全ての施設を大規模な工事により、更新していくことは極めて困難な状況にあります。

また、小・中学校など、対象人口が減少している施設では、施設余剰が発生している一方、高齢者の増加により、新たな需要の増加が予想されます。少子高齢・人口減少社会の進行に伴い、将来にわたって税収の減少と利用者の減少が予想される中、公共施設の維持管理と施設サービスの需要の変化に適切に応えていく必要があります。

図-28 建築物等施設に係る維持更新費用の実績と推計



出所：盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化長期計画

1 本市の人口動態の特徴

平成20年度に盛岡市まちづくり研究所が行った調査結果によると、本市の「人口減少が進む大きな要因は社会動態による減少より自然動態による減少が大きい」と報告されています。

また、過去約10年間の地区別の人口増減を見ると、新たに開発が進められた地域への集積が進んだ一方で、市域全体としては、減少している地域が多く、市域内部での人口移動があります。

(1) 自然動態の特徴

本市の人口の自然減は、高齢化に伴う死亡者数の増加と出生者数の減少があいまって生じており、出生数減少の背景要因としては、若年層の女性人口の減少、未婚化、晩婚化などが挙げられます。

本市が実施した結婚・出産等に関する市民意識調査の結果からは以下の点が確認されました。

- ① 市民の希望出生率は、1.75であり、実際の合計特殊出生率1.33とは差があります。
- ② 理想の子どもの数を持ってない理由は、経済的理由と年齢的理由が上位2位を占めています。
- ③ 結婚の望みをかなえられない理由は、「出会いの場がない」、「結婚したいと思える人とめぐり会えない」が上位2位を占めています。

(2) 社会動態の特徴

本市の人口の社会増減は、おおむね均衡していますが、15歳から19歳までの世代で県内の他地域を中心に大幅な転入があるものの、25歳から39歳までの世代が首都圏・宮城県などにほぼ同じ規模で転出しています。

本市が実施したU・I・Jターンに関する意識調査の結果からは、以下の点が確認されました。

- ① 卒業年次の高校生・大学生等のうち、36.5%が、本市に希望する進学先・就職先がないために他県等への進学・就職を決めています。
- ② 他県等への進学・就職を決めた生徒・学生のうち、25.6%が、Uターンの意思があり、Uターンをしやすくするために必要な支援としては、仕事に関する事及び住居に関する事が上位2位を占めています。
- ③ 過去1年に本市から転出した人のうち、60.6%が、仕事（就職を含む）の理由を挙げています。また、Uターンの意向については、「戻りたい」が18.9%、「できれば戻りたい」が24.6%となっています。

2 人口対策の基本的視点

これまでの調査・分析結果を踏まえ、次の3つを基本的な視点としながら、本市の人口対策を検討することとします。

- (1) 結婚・出産・子育て等に係る市民の願いに応え、出生数を維持・増加させる必要があります。

本市では、今後、出生数の減少が見込まれますが、現状では、結婚・出産・子育て等への市民の願いが十分にはなえられていないことから、結婚・出産・子育て等に係る支援を重点化し、出生数の維持・増加を図る必要があります。

総合計画策定時に本市が実施したアンケート調査では、少子化対策に必要なこととして、「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んだ人が最も多く、次いで「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」との結果が得られています（資料編66 ページ参照）。

- (2) 盛岡広域圏等への就職の願いに応え、若年・成年（20～39歳）の首都圏等への転出者の減少を図る必要があります。

本市の人口の社会減は、高校・大学等卒業後の就職・結婚期に顕著ですが、現状では、若年・成年層の市民の、地元定着やUターンの願いが十分にはなえられていないことから、雇用創出や創業支援に係る取組を重点化し、首都圏等への転出者の減少を図る必要があります。

- (3) 本市に「住みたい」「住み続けたい」と思う者の願いに応え、移住・定住者の増加を図る必要があります。

現在、首都圏等に在住中で、本市へのU I Jターンの意向がある者が一定数いますが、諸条件が整わずにその願いが実現できていないことから、雇用創出などの取組と併せ、情報提供など移住・定住に係る取組を重点化し、移住・定住者の増加を図る必要があります。

3 人口の展望

本市の人口は、市民の結婚・出産・子育てや就労の願いに応えると仮定した場合、2040年に26～27万人程度となります。

4 将来人口の推計

(1) 総合計画策定時の人口推計

本市では、平成26年度に、総合計画（平成27～36年度）の策定に当たり、独自で人口の推計を行いました。その際、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計は、東日本大震災の影響による社会移動の状況を十分に反映させたものでないと認められたことから、部分的に本市の人口移動の趨勢を加味して推計を行いました。

その結果、本市の人口は、平成52(2040)年には、247,898人となり、平成22年から比べると約16.5%の減少となります。

また、年齢3区分別人口では、15歳未満及び15～64歳で減少するものの、65歳以上は増加し、高齢化率は36.6%まで上昇します。

表-12 人口推計（総合計画策定時）

（単位：人）

区分	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
総数	297,047	290,455	281,820	271,739	260,458	247,898
男	140,381	136,755	132,236	127,083	121,377	115,157
女	156,666	153,700	149,584	144,656	139,081	132,741
15歳未満	37,182	33,532	29,944	27,113	25,120	23,339
15～64歳	185,613	176,092	167,437	157,827	147,173	133,874
65歳以上	74,252	80,831	84,439	86,799	88,165	90,685
(再掲)75歳以上	36,900	41,316	47,928	51,774	53,447	54,144

女性人口の推移では、結婚・妊娠・出産の中心となる 20～39歳の世代で減少が見込まれ、それにつづく 0～19歳の世代も減少します。

図-29 女性人口の推移

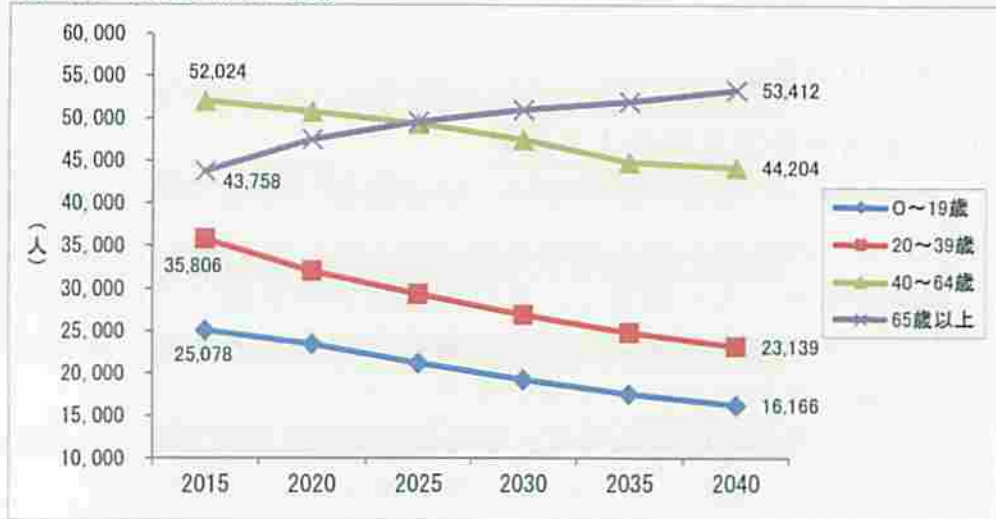


図-30 平成 27 年の人口ピラミッド

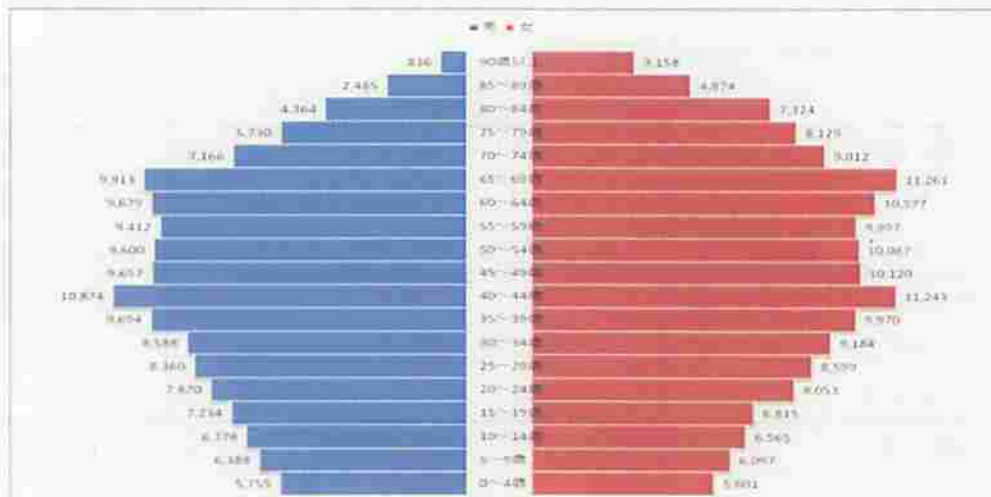
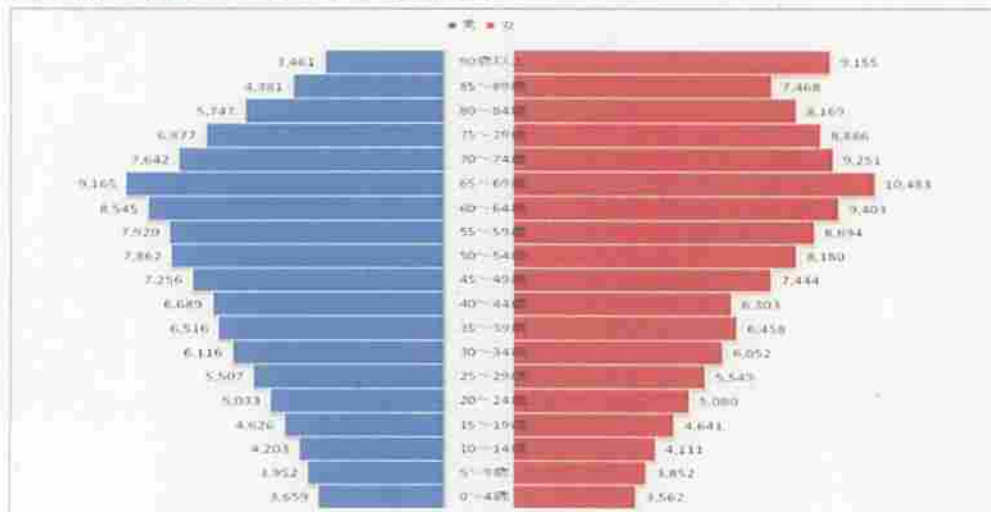


図-31 平成 52 年の人口ピラミッド



(2) 本市の将来展望を反映した人口推計

ア 推計 1

合計特殊出生率が、アンケート調査結果から得られた希望出生率 1.75 を 2030 年に実現して以後継続するものとし、社会増減については、20 歳から 39 歳までの若者の社会減の割合を、2020 年以降、国立社会保障・人口問題研究所推計の 36.5% 減となるものと仮定します。これは、U I J ターンに関する意識調査から得られた地元定着の意向に基づいた数値です。

この場合、本市の人口は、2040 年に 263,672 人、2060 年に 224,726 人と推計されます。

イ 推計 2

合計特殊出生率については、岩手県の推計と同様の伸び率で上昇したと仮定すると、岩手県推計では、2013 年の 1.43 から 2030 年に 1.8 と 1.26 倍の伸び率となっており、本市の 1.33 をもとに計算すると、1.68 となります。

社会増減については、上記「ア」同様の考え方により仮定します。

この場合、本市の人口は、2040 年に 261,231 人、2060 年に 219,768 人と推計されます。

(3) 参考

ア 国立社会保障・人口問題研究所の推計

国立社会保障・人口問題研究所が行った人口推計(2013年3月推計)によると、本市の人口は、2040年には、243,930人となり、2010年から比べると約18.2%の減少となります。

イ 岩手県人口ビジョン(案)に準拠した推計

岩手県の「岩手県人口ビジョン(案)」においては、出生率の向上と社会増減ゼロを実現し、超長期的な人口の可能性も視野に入れた人口の定常状態を目指し、2040年に100万人程度の人口を確保するとされています。

具体的には、岩手県全体で合計特殊出生率が、2030年に1.8、2040年に2.07となり、かつ、2020年に社会増減がゼロとなる仮定です。

この場合、本市の人口は、2040年に、270,361人、2060年には、240,380人と推計されます。

また、超長期の展望として、2080年に合計特殊出生率が2.3まで回復すると、2100年頃から、本市の人口は上昇局面を迎えます。

表-13 各推計値の比較

(単位：人)

区分	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
本市総合計画推計	297,047	290,455	281,820	271,739	260,458	247,898				
本市独自推計 1	296,251	291,470	285,610	279,358	272,094	263,672	254,282	244,583	234,595	224,726
本市独自推計 2	296,098	291,044	284,808	278,052	270,267	261,231	251,271	240,969	230,333	219,768
社人研推計	294,998	287,606	278,398	268,023	256,599	243,930				
岩手県準拠推計	296,361	292,148	287,038	281,779	276,371	270,361	263,122	255,538	247,814	240,380

※本市独自推計 1：合計特殊出生率→2030年に1.75

+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減

※本市独自推計 2：合計特殊出生率→2030年に1.68

+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減

※岩手県準拠推計：合計特殊出生率→2030年に1.8/2040年に2.07/2080年に2.3

+2020年以降社会減ゼロ

図-32 各推計値の比較

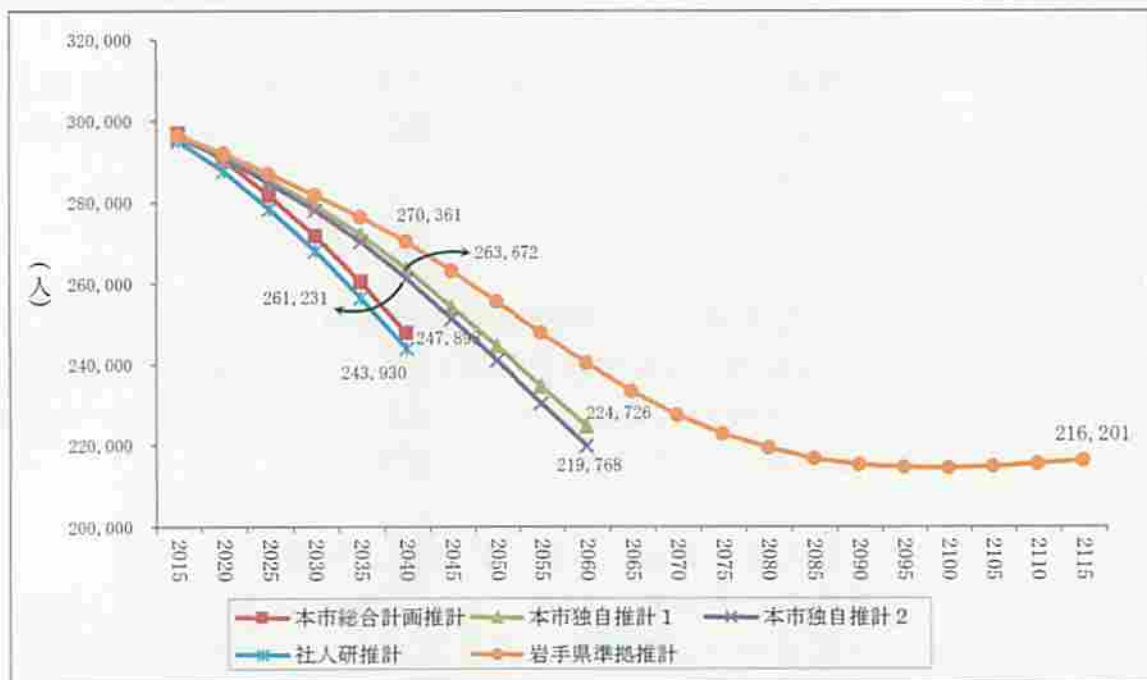
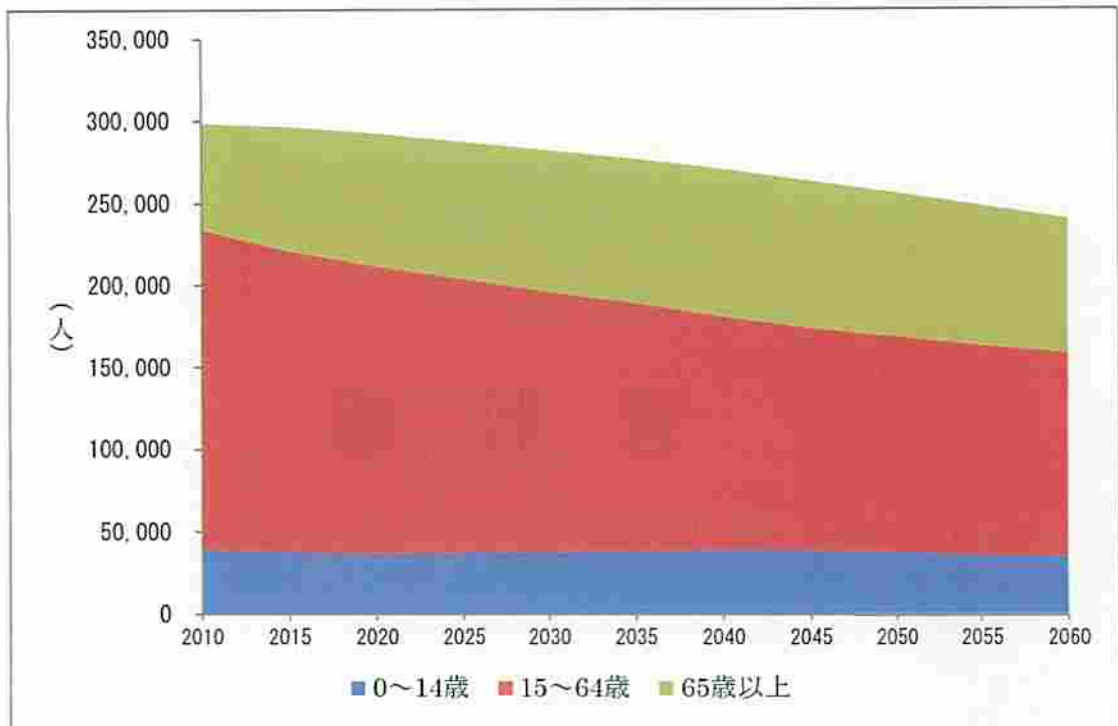


図-33 岩手県準拠推計に基づく年齢3区分別人口の推移



資料編

1 U I J ターンに係る意識調査結果

【調査の概要 I：卒業後の進学・就職・居住に関する意識調査】

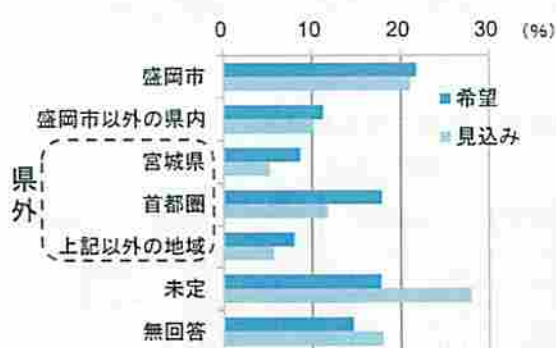
- 調査対象者：本市および周辺市町村の高等学校，専修学校，短期大学，大学に通う学生
- 調査期間：平成27年6月10日～6月30日
- 回収数：1,489票

【調査結果のポイント】

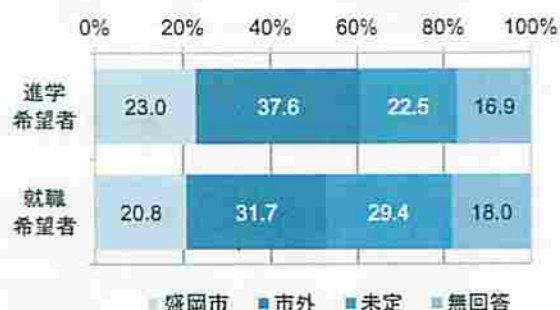
進学や就職により盛岡市以外の地域へ転出する学生は多い

- 卒業後に見込まれる居住地は，「盛岡市」が21.1%，「盛岡市以外の県内」が10.2%，「県外」が22.8%。
- 進学希望者と就職希望者別でみると，居住地に大きな差は見られない。

図一資1. 卒業後の居住地



図一資2. 進路×見込み居住地



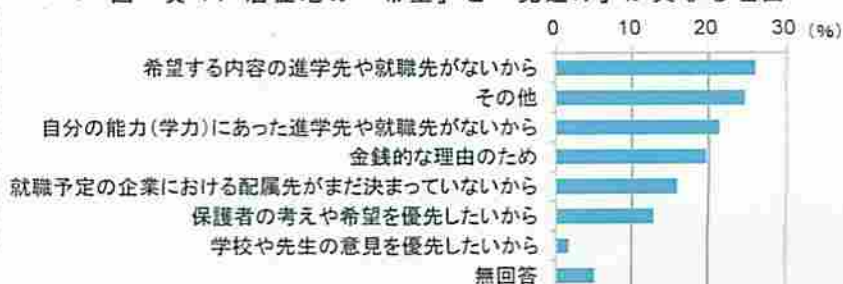
進学や就職による今後の居住地については，約2割が「希望」と「見込み」で異なっている

- 居住地の“希望”と“見込み”が「同じ」は61.4%，「異なっている」は19.7%となっている。
- “異なっている”理由を見ると，「希望する内容の進学先や就職先がないから」(26.1%)が最も多く，次いで「その他」(24.7%)，「自分の能力(学力)にあった進学先や就職先がないから」(21.4%)となっている。

図一資3. 居住地の「希望」と「見込み」



図一資4. 居住地の「希望」と「見込み」が異なる理由



県内の居住地を希望した場合は実現の可能性は高まるが、

県外を希望した場合は親等との意向とは異なるケースが見られる

- 居住地の“希望”と“見込み”を見ると、盛岡市を希望している78.3%は「盛岡市」の見込みとなっており、その次に多いのが「未定」(11.5%)、「盛岡市以外の岩手県内」(4.6%)となっている。
- 親等の意向を見ると、子どもが“県外”を希望している場合でも、親は子どもの希望通りの地域を望んでいる傾向は低い。

表一資1. 希望居住地×見込み居住地

見込み(有力居住地)

	盛岡市	盛岡市以外の岩手県内	宮城県	首都圏	上記以外の地域	未定	無回答
希望 盛岡市	78.3	4.6	0.6	1.5	0.6	11.5	2.8
盛岡市以外の岩手県内	7.8	73.1	1.2	0.6	1.2	10.2	6.0
宮城県	14.7	3.9	47.3	3.1	0.8	26.4	3.9
首都圏	6.8	1.5	4.2	60.0	1.5	21.5	4.5
上記以外の地域	1.7	1.7	1.7	1.7	61.9	21.2	10.2
未定	3.4	1.1	0.0	1.1	0.4	92.0	1.9

表一資2. 希望居住地×親等の意向居住地

親等の意向

	盛岡市	盛岡市以外の岩手県内	宮城県	首都圏	上記以外の地域	未定	無回答
希望 盛岡市	70.6	5.3	0.6	0.3	1.9	14.1	7.2
盛岡市以外の岩手県内	4.2	67.1	0.0	0.0	0.6	16.8	11.4
宮城県	14.7	11.6	37.2	0.0	2.3	27.1	7.0
首都圏	13.6	5.3	3.8	38.9	6.8	26.0	5.7
上記以外の地域	5.9	3.4	0.8	0.8	52.5	17.8	18.6
未定	8.0	2.7	0.4	0.4	2.3	84.4	1.9

盛岡市以外に転出する理由は、進学希望者は「希望する進学先がない」が1位

就職希望者は「日常生活が便利そうだから」が1位

○転出理由をみると、「盛岡市には希望する進学先・就職先がないから」(36.5%)が最も多く、次いで「自分のスキルアップができるから」(25.7%)、「日常生活が便利そうだから」(25.3%)となっている。

○進学希望者の転出理由をみると、「盛岡市には希望する進学先がないから」(62.3%)が最も多く、次いで「自分のスキルアップができるから」(25.9%)となっている。

○就職希望者の転出理由をみると、「日常生活が便利そうだから」(28.3%)が最も多く、次いで「自分に合った生活スタイルを送りたいから」(27.3%)となっている。

※卒業後の居住地の見込みで盛岡市以外を選択した者を対象

表-資3. 盛岡市以外に転出する理由

	先盛岡市には希望する進学・就職先がないから	盛岡市の情報や相談窓口がよくわからないから	盛岡市にある進学先・就職先との相違	日常生活が便利そうだから	地元や親元を離れたくないから	自分のスキルアップができるから	件数の多い仕事に就きたい	給与が高いなど、労働条件が良いから	趣味をより楽しみたいから	レジャー施設などの遊ぶ場所が充実しているから	田舎暮らしに憧れがあるから	自分に合った生活スタイルを送りたいから	震災復興に関する仕事に就きたいから	その他	無回答
進学	62.3	3.1	19.8	23.5	25.9	12.3	9.3	5.6	0.0	9.3	0.6	12.3	4.3		
就職	23.2	6.0	28.3	17.1	26.3	17.5	12.4	8.6	1.6	27.3	3.5	25.7	3.2		
全体	36.5	5.5	25.3	19.4	25.7	15.7	11.2	7.3	1.0	21.0	2.4	21.2	3.7		

転出後に約2割半が盛岡市へのUターンを希望

- 盛岡市以外への進学・就職後のUターン意向を見ると、「戻りたい」が8.0%、「できれば戻りたい」が17.6%となっており、「わからない」を含めると約7割。
- Uターンのタイミングでは、「未定・わからない」(41.9%)が最も多く、次いで「転職先が見つかったとき」(28.2%)、「学校を卒業したとき」(19.4%)となっている。

図一資5. Uターン意向



※卒業後の居住地の見込みで盛岡市以外を選択した者を対象

図一資6. Uターンのタイミング



図一資7. 盛岡市に移住した場合の志望する業種

Uターン後に就きたい業種は「医療・福祉」

- 盛岡市にUターンで移住した場合、志望する業種は「医療・福祉」が26.4%、「公務」が14.9%、「宿泊・飲食業」と「サービス業」が10.7%となっている。



Uターンの課題は「仕事の確保」が突出して多い

- Uターンで戻ること考えた場合に課題となることは、「仕事の確保」(68.9%)が最も多く、次いで「住宅の確保」(35.8%)、「転居資金の工面」(16.4%)となっている。

図一資8. Uターンで課題となること



Uターンをしやすいするためには「仕事」「住宅」「医療や福祉」の充実が求められている

- Uターンをしやすいするために必要な行政の支援は、「就職の支援・就業斡旋」(58.8%)が最も多く、次いで「企業誘致など働く場の確保」(52.1%)、「住宅情報の提供など住宅探しの支援」(39.8%)、「医療や福祉に関する支援」(32.2%)となっている。
- 性別でみると、性別により順位は大きく変わらないが、女性は男性よりも「就職支援・就業斡旋」や「医療や福祉に関する支援」「バスやタクシーなど日々の移動に関する支援」で比較的多く、男性は女性よりも「住宅情報の提供など住宅探しの支援」や「起業や創業の支援」で比較的多い。

図一資 9. Uターンを可能にするために必要な施策



図一資 10. 男性



図一資 11. 女性



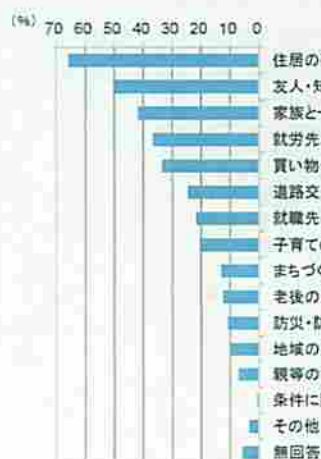
住み続ける、戻ってくるための条件は、定住予定者と市外移住者との間でニーズが異なる

- 住み続ける、戻ってくるための条件は、「住居の確保をしやすい」(49.2%)が最も多く、次いで「就労先が充実している」(43.6%)、「友人・知人が近くにいる」(41.4%)となっている。
- 盛岡市への居住予定者は、「住居の確保をしやすい(実家に戻ることも含む)」(65.6%)が最も多く、次いで「友人・知人が近くにいる」(50.3%)、「家族と一緒に暮らせる(家族の近くにいる)」(41.7%)となっている。
- 市外への居住予定者は、「就労先が充実している(就きたい仕事がある)」(47.9%)が最も多く、次いで「住居の確保をしやすい(実家に戻ることも含む)」(39.9%)、「友人・知人が近くにいる」(38.0%)となっている。

表一資 4. 住み続ける、戻ってくるための条件

	住居の確保をしやすい(実家に戻ることも含む)	就労先が充実している(就きたい仕事がある)	友人・知人が近くにいる	家族と一緒に暮らせる(家族の近くにいる)	就労先が充実している(就きたい仕事がある)	買物やレジャー施設が充実している	道路交通網・公共施設が充実している	防災・防犯体制が充実している	近づくにしている	家族と一緒に暮らせる(家族の近くにいる)	友人・知人が近くにいる	まちづくりや地域行事に参加できる	親等の扶養や介護のために盛岡市に住み続けなければならない	条件に関わらず盛岡市から離れたい	その他	無回答
盛岡市	65.6	36.6	21.7	20.4	12.4	9.9	33.4	24.5	10.8	41.7	50.3	13.1	7.0	0.6	3.5	5.7
市外	39.9	47.9	32.7	29.0	19.0	11.7	35.6	29.2	12.7	27.8	38.0	7.0	4.5	3.5	4.3	7.8
未定	47.1	49.5	34.3	25.8	16.2	12.1	38.4	32.1	14.0	28.5	39.4	7.7	3.9	2.9	4.3	6.0
計	49.2	43.6	29.3	24.2	15.7	10.8	34.5	27.6	11.8	31.1	41.4	8.6	4.8	2.8	3.8	8.5

図一資 12. 住み続ける、戻ってくるための条件(盛岡市に居住予定)



図一資 13. 住み続ける、戻ってくるための条件(市外に居住予定)



【調査の概要 II：転出者のUターンに関する意識調査】

- 調査対象者：平成26年4月1日から平成27年3月31日の間に、本市から首都圏及び宮城県へ転出された18歳以上40歳未満（平成27年3月31日現在）の方およそ2000人
- 調査期間：平成27年7月8日～7月27日
- 回収数：350票（回収率18.2% ※宛所不明除き）

【調査結果のポイント】

「仕事」や「進学」を理由に盛岡市以外の地域に転出した人が多い

- 盛岡市から転出した理由は、「盛岡市以外の地域に希望する就職先があったから」(36.6%)が最も多く、次いで「会社内の異動のため」(24.0%)、「盛岡市以外の地域に希望する進学先があったから」(18.6%)となっている。

図一資 14. 盛岡市からの転出理由



図一資 15. 就職先に希望したこと



○就職先に希望したものは、「職種・仕事内容」「給与が良い」「成長できる環境」「やりがい」が多い。

※転出理由で「盛岡市以外の地域に希望する就職先があったから」を選択した者を対象

4割強が盛岡市へのUターンを希望（実家が盛岡にある場合は約6割がUターンを希望）

- 今後のUターン意向を見ると、「戻りたい」が18.9%、「できれば戻りたい」が24.6%となっている。
- 盛岡市に実家がある人のみで見ると、「戻りたい」が27.0%、「できれば戻りたい」が31.1%となっており、約6割がUターン意向を持っている。

図一資 16. Uターン意向



図一資 17. Uターン意向
(盛岡市に実家がある人)



Uターン意向がある人は、Uターンにあたり「転職先」を重視している

- Uターンのタイミングとしては、「時期にかかわらずタイミングがあったとき」(39.7%)が最も多く、次いで「転職先が見つかったとき」(17.0%)、「定年退職や老後を考えたとき」(9.9%)となっている。
- 盛岡市に移住する場合に志望する業種は、「医療・福祉」「公務」「サービス業(宿泊・飲食業を除く)」が多い。

図一資 18. Uターンのタイミング



図一資 19. 盛岡市に移住する場合の志望業種



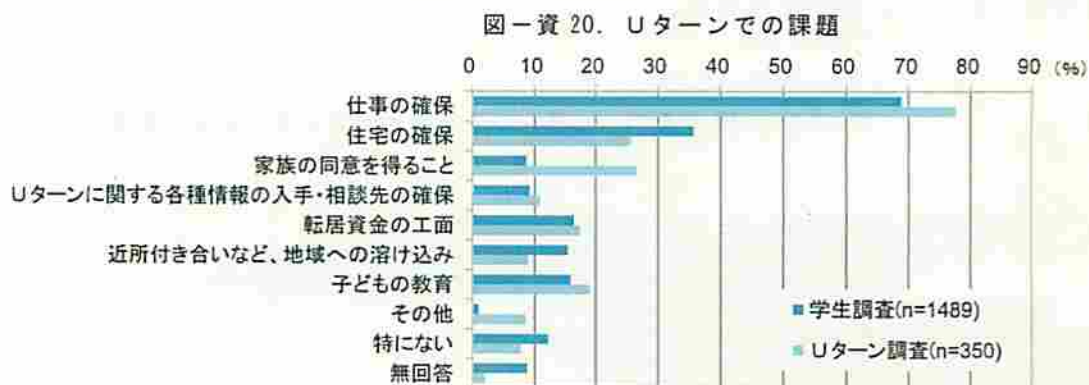
※Uターン意向で「戻りたい」「できれば戻りたい」を選択した者を対象

Uターンの課題は、「仕事の確保」が突出して多いが、

学生調査と比較すると「家族の同意を得ること」が多い

○Uターンでの課題は、「仕事の確保」(77.7%)が最も多く、次いで「家族・パートナーの同意を得ること」(26.6%)、「住宅の確保」(25.7%)となっている。

○学生調査と比較すると、おおよそ同じ傾向となっているが、「家族・パートナーの同意を得ること」において差が見られる。



すべてのカテゴリで「仕事の確保」が最も大きな課題であり、

年齢が上がるとともに「住宅の確保」「家族・パートナーの同意を得ること」が増加

年齢が下がるとともに「Uターンに関する各種情報の入手・相談先の確保」が増加

結婚している人は「住宅の確保」「家族・パートナーの同意を得ること」「子どもの教育」が相対的に多い

表-資 5. Uターンでの課題 (年齢別・婚姻別)

		仕事の確保	住宅の確保	家族・パートナーの同意を得ること	Uターンの入手・相談する各種情報	転居資金の工面	近所付き合いなど、地域への溶け込み	子どもの教育	その他	特になし	無回答
年齢	18~19歳	75.8	6.1	12.1	18.2	6.1	3.0	12.1	0.0	15.2	0.0
	20~24歳	84.5	23.6	15.5	11.8	21.8	6.4	10.9	3.6	8.2	0.9
	25~29歳	74.3	24.3	32.4	13.5	23.0	12.2	16.2	14.9	9.5	0.0
	30~34歳	72.3	24.6	30.8	9.2	9.2	9.2	21.5	12.3	7.7	4.6
	35~39歳	78.3	41.7	41.7	5.0	20.0	10.0	38.3	11.7	1.7	1.7
	40~45歳	71.4	42.9	42.9	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3
婚姻	結婚している	72.3	34.5	41.2	5.0	18.5	11.8	37.0	13.4	4.2	2.5
	結婚していない	80.6	21.6	18.9	13.7	17.2	7.0	9.7	6.2	9.7	1.3

Uターンをしやすいするために必要な支援は、「仕事」「情報・相談」「住宅」が多い

- Uターンをしやすいするために必要な行政の支援は、「就職の支援・就業斡旋」(62.3%)が最も多く、次いで「企業誘致など働く場の確保」(60.0%)、「転居に関する総合的な情報提供、相談窓口の設置」(28.6)、「住宅情報の提供など住宅探しの支援」(26.6%)となっている。
- 学生調査と比較すると、おおよそ同じ傾向となっているが、「住宅情報の提供など住宅探しの支援」において差が見られる。

図-資 21. Uターンを可能にするために必要な支援



Uターンをしやすいするために必要な支援は、「年齢」や「婚姻状況」によって異なる

○年齢が上がるとともに「就職の支援・就業斡旋」は減少し、一方で「起業や創業の支援」が増加している。

○年齢が上がるとともに「転居に関する総合的な情報提供、相談窓口の設置」が増加している。

○年齢が下がるとともに「バスやタクシーなどの日々の移動に関する支援」が増加している。

○結婚している者は「医療や福祉に関する支援」が相対的に多くなっている。

表一資6. Uターンを可能にするために必要な支援

	住宅情報の提供など住宅探しの支援	企業誘致など働く場の確保	就職の支援・就業斡旋	農業・林業など第1次産業への就業支援	転居に関する総合的な情報提供、相談窓口の設置	転居後、地域コミュニティに馴染むための交流支援	NPOやボランティアなど地域活動参加への支援	起業や創業の支援	医療や福祉に関する支援	移動に関する支援	バスやタクシーなど日々の移動に関する支援	お試しの定住体験（生活や就業体験）の実施	Uターン体験者の事例紹介や話を聞く機会の設定	その他	特になし	無回答
年齢	18～19歳	18.2	57.6	69.7	6.1	18.2	9.1	3.0	12.1	18.2	27.3	3.0	3.0	0.0	6.1	3.0
	20～24歳	24.5	54.5	66.4	7.3	23.6	4.5	1.8	14.5	15.5	25.5	5.5	4.5	2.7	3.6	5.5
	25～29歳	28.4	70.3	64.9	6.8	27.0	10.8	0.0	16.2	27.0	24.3	12.2	10.8	4.1	4.1	0.0
	30～34歳	33.8	50.8	61.5	13.8	35.4	10.8	1.5	18.5	23.1	20.0	9.2	13.8	3.1	3.1	4.6
	35～39歳	25.0	70.0	51.7	11.7	36.7	10.0	1.7	20.0	35.0	15.0	6.7	10.0	8.3	0.0	0.0
	40～45歳	28.6	57.1	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
婚姻	結婚している	31.1	60.5	52.9	12.6	34.5	12.6	0.8	14.3	32.8	18.5	7.6	11.8	5	2.5	1.7
	結婚していない	24.7	59.5	67.8	7	25.6	6.2	1.8	17.2	18.1	24.7	7.5	6.6	3.1	3.5	4

■盛岡市に戻りたい理由（自由回答）

NO	理由
1	地元だから。
2	実家で暮らしたい。
3	不便はあるが、落ち着く環境が良いから。周辺に自然が多く魅力的。釣りやスノーボードが好きだから。
4	住みやすい地域だと思うから。
5	慣れ親しんだ土地だから。
6	町、人が自分に合っている。すべてゆっくりしていて落ち着ける。
7	食べ物がおいしく、自然が豊かで人間が暮らすのには本当に良い環境と思うから。
8	たまに思い出してそう思うことがあるから。
9	盛岡が好きだから。
10	地域に特産物がたくさんあって、子どもの医療費助成があり、気候も適度。適度に都会、適度に田舎、遊ぶ所もある。海もある。言うことなし。
11	小さいころから盛岡で育って、盛岡が大好きだから。
12	家族、友人が近くにいるから。
13	実家もあり、落ち着くから。
14	住みよい。好き。
15	盛岡が好きなので。
16	実家が近い。

NO	理由
17	自分を育ててくれた場所において、盛岡のために仕事や、地元の仲間たちといたい。
18	実家に戻りたい。落ち着いた環境のため。
19	いずれは、実家に帰りたいと思っているから。
20	親や親友がいるのと、住みやすいから。
21	今まで住んできた場所で、親などもいるから。
22	・住み慣れた場所であるため。 ・最終的には岩手県に貢献したいと思っているため。
23	環境がとてつもない。人が優しい。子育てに対するケアが厚い。
24	結婚して将来子供が生まれたときに、身近に親がいた方が何かと安心だから。
25	4年間住んで住みやすかったため。
26	人が見な優しく住みやすい。
27	住みやすいため。田舎と栄えている場所のバランスがちょうどよく、自分が親になったときに住むのに適している。
28	親の介護。
29	街が好き。
30	東京でノウハウを身に付け、岩手で活かしたい。盛岡ほど素敵な街はないです。
31	岩手が好きだから、空気がきれい、家族が岩手に居るから。
32	盛岡市が好きだから。
33	人口等、それほど多くないが、病院等の数が多い。(仙台市に住んでいますが、人口が多すぎて渋滞等がひどい)
34	自分が生まれ育った街で暮らしやすいし、夫婦とも家族が盛岡にいるので。
35	空気がきれいだから。時間がゆっくりと感じられるから。家族がいるから。
36	東京ほど人が多いわけでもなく、全くいないわけでもないから。冬は厳しいが、生活環境、人が優しいから。
37	友人、知人が多いから。
38	冬の生活は厳しいが、自然にあふれ、食べ物もおいしく、街も落ち着いた。心が休まるのは盛岡だと今も感じるため。
39	地産地消を心がけており、野菜や肉、海産物が新鮮でおいしいので。自然豊かで、子育て環境も良さそう。
40	実家があるから。友人がいるから。親戚がいるから。住み慣れた土地で過ごしたいから。岩手が好きだから。盛岡は住みやすいから。
41	住みやすい街だとわかったし、家族、友人が多くいるから。
42	家族が居るし、友達もたくさんいるから。子育てしやすそう。
43	実家があるから。
44	家族が住んでいるため。
45	両親が盛岡におり、自然も豊かで子育てに適するため。
46	四季の変化が豊か(特に冬は埼玉に比べ雪が多い)、比較的近くに豊かな自然や魅力的な観光地があるなど。
47	自然が豊か。人が優しい。家族や友人が盛岡にいる。安心感がある。
48	ふるさとがいいからです。
49	親の面倒を見る人が盛岡市にいないため。
50	実家の近くで子育てしたい。盛岡が好きだから。
51	おちつく。人が優しい。
52	親がいるため。
53	街がコンパクトで住みやすい。
54	両親が側にいる方が安心する。なによりも住みやすい。
55	盛岡の会社から実家が近く、盛岡が過ごしやすから。
56	転勤で8年住んでみて、人柄や県民性が好きな事や友人がたくさんできた事、買い物等の便利さも魅力的なので。
57	育った街なので、友人がたくさんいるからです。こちら(宮城県)は、旦那の地元で私は知り合いがいないから。
58	ひとり暮らしだとお金が貯まらない。

NO	理由
59	家族の近くで暮らしたいから。
60	親がいるので、やはり側にいたいと思う。子供を産むなら親の側がいいかと思う。
61	地元の友達に会いたいから。家族と日々過ごしたいから。
62	住みやすい。(店、病院、学校など車を使わなくても行けていた)街並みがすてき、ゆったりしている。地元でもないのに、盛岡に住む可能性は少ないですが、いつも戻りたいと思っているほど良い町だと思います。
63	子どもが暮らしやすいまちづくり。具体的には、大通りの飲食店の禁煙化等。
64	両親が生活している場所、自分自身も生まれ育った町だから。
65	夫も私も岩手出身なので、いずれは地元に戻りたい。
66	盛岡に貢献したい。また生まれ育った盛岡に愛着をもっているから。
67	実家が盛岡市にあり、親の世話の事を考えるため。また、十数年間盛岡に在住していた為、盛岡の方が居心地が良い。
68	盛岡のあたたかさが好きだという事と、自分の母校で教師をやりたいという夢があるから。
69	適度にのどかで何とも言えず、暮らすには私にとっては最適な場所。
70	なじんだ人が多い、本当に良い人が多いと思います。
71	街、人、リズム。
72	住みやすい、実家に帰省しやすい。
73	私の故郷である岩手県内で一番発展している街なので暮らしが便利だと思うから。
74	生活環境が良かった。
75	ゆくゆくは、育った盛岡市に貢献できるような仕事をしたいと考えている為。また、安全な街であると感じているので、出産を機にリターンを考えるとと思う。
76	生まれ育った街だから。
77	都会での子育てはイヤだから。
78	盛岡が大好きだから。
79	地元で就職したいから。
80	旦那も私も盛岡出身で、親もいるので。やっぱり、自分が育った盛岡が好きだから。
81	実家があるから。
82	地元が好きで、地元になにか貢献したい。
83	幼少期を過ごした思い出の地(出身は他県ですが)であること。また、東京と比較して、自然と調和した素晴らしい環境があること。
84	周りの環境が良いから。安心するため。
85	身内がいるため。
86	地元が好きだから。盛岡がとても住みやすい所だと思うので。
87	自然が豊かで過ごしやすく、人も温かいから。
88	・2年半、盛岡市に住んだことがあり、住みやすかったため。 ・友人がいるため。
89	盛岡が好きだから。
90	生まれ育った土地だから。生活・子育てに良い環境だと思うから。
91	親しみがある、慣れ親しんだ場所だから。落ち着ける。親がいるから。
92	やっぱり岩手の人の方がいい。自然や静かさが恋しいです。できれば早く戻りたいですが、戻る資金を貯めないといけないので、頑張るしかありません。
93	家族が心配だから。
94	住み慣れているため。
95	環境が良い。空気がきれい。「何もないが、なぜか落ち着く」町であるから。
96	生まれ育った所だから。
97	住みやすい環境が整っている。
98	長く住んだ所であること。長く付き合いがある友人がいる事。先祖の墓があること。
99	ふるさとだから。
100	住みよい。
101	とても住みやすい環境であり、将来家族や子どもと暮らすことを考えれば、親も盛岡にいてもいい環境だと思うから。

NO	理由
102	盛岡が好きだから。
103	実家になるべく近くなりたいから。人も多すぎず、適度に発展してて過ごしやすいから。
104	盛岡市に住む両親が介護等が必要になった時、そばにいたいから。
105	やっぱりお母さんと一緒に住みたい。
106	親の面倒を見なければならなくなった時、両親が愛着をもって暮らす盛岡で世話したいと思うから。
107	都会よりも地方の方が住みやすいため。
108	のんびりとしていて暮らしやすいから。
109	都会に出てきてなお、実家や地元の良さを感じたから。こちらで経験を積んで、地元の人たちに貢献したいと思うから。
110	住み慣れた町がいいから。
111	岩手の生活に慣れてしまい都会では暮らしにくいから。
112	生活環境が便利なので。あとあまり人でごちゃごちゃしていない所。
113	岩手を離れて、岩手の良さがすごく分かった。景色も人も岩手が1番。全部1番。
114	盛岡が暮らしやすいから。
115	実家がある。世話をすべき人（親・祖父母）がいる。
116	親の世話、介護関係。
117	県外に出て、改めて盛岡の住みやすさ、居心地を実感したから。
118	単純に盛岡が好きだから。
119	生活しやすい環境だから。（地形など。）自然が多く残っているから。
120	生活のしやすさ、地理的に判る。
121	自分が育った土地だから。
122	盛岡市を愛しているし、将来は盛岡市のために働きたいから。
123	自分が生まれ育った街に対して少しでも役に立ちたいと考えているため。また、自分の子供を育てるために、盛岡の風土がとても良いと考えているため。
124	ほどよい田舎で暮らしやすい。育った場所なので愛着がある。知り合いがたくさんいる。
125	家族が居るから。
126	住みやすい環境だから。
127	実家があるから。
128	やっぱり盛岡が好き。自然もあるのに店もある。住みやすいと思う。
129	自分の親もいるため、子育ての手助けをしてもらえるので。後々親の介護を考えると近くにいたいから。
130	本当に人の心が温かくていい町だと思うから。また、住み心地が良いから。
131	町の風景が好きだからです。中津川、岩手山。
132	地元が好きだから。友達がたくさんいる。子供は岩手で育てたいから。
133	盛岡市内で飲食店を開業しようと思い、その勉強のために東京で数年間働いてみようと思った。
134	親がいる。
135	大学時代お世話になった土地でもあるし、何よりすごく住みやすかったため。
136	盛岡の文化、環境が大好きだから。
137	地元が一番落ち着くから。
138	家庭を持ったらのんびり暮らしたいから。

【調査の概要 Ⅲ：盛岡市へのU I Jターンに関するワークショップ】

開催場所	調査対象	実施日時	参加者数
東京（第1回）	岩手県内出身者	8月26日 19：00～21：30	20人
東京（第2回）	岩手県外出身者中心	9月5日 15：00～17：30	15人
仙台	岩手県内出身者	8月31日 19：00～21：30	8人

【調査結果のポイント】

Uターンを考えたきっかけ

- 後々の不安（親のこと、親の介護）
- 都会に疲れた（東京は人が多い、都会生活に疲れた）
- 田舎暮らしをしたい（自然の中で暮らしたい、地域が面白そう、知人が多い）
- 都会と地方の差の減少（ネット、宅配、距離を感じなくなった）
- 大学卒業（卒業時に良い仕事があったならば戻っていた）
- 定年（「きっかけにはならなかった」との声も）
- 今後の備え（将来を考えて（いざ「帰りたい」となった時に備えておく））
- 仕事・働き方（就職活動、現在の働き方への不満〔転勤が多い、子どもや家族への負担〕）
- 地域への想い（地域をなんとかしたい、盛岡・岩手がアツイと思った）
- 地元出身者との交流（岩手出身の人と会った時、岩手出身の人と岩手以外で話した時）
- 震災（地元を盛り上げたい、祖父母が沿岸にいるため身近に感じる）
- 帰省した時（盛岡の空気感が良かった）
- ライフステージ（結婚、子育て）
- 盛岡に行ってみて（さんさ踊りに参加して）

U I Jターンの課題

- 仕事（業種・職種が少ない〔やりたい仕事・現在のスキルを活かせる仕事がない〕、職探しが難しい〔情報が少ない〕、定年後〔仕事が無い、再雇用の場合の雇用条件〕、転職リスク）
- 給与（給与が少ない・減る）
- 経済性（家賃が高い〔収入に比べて高い〕、地域性〔車の購入が必要、暖房費〕、見通し〔収支のイメージがわからない〕）
- 移動（車が必要、車の運転が不安〔雪道〕、車通勤だと帰りに飲めない、終電が早い、電車バスの本数が少ない）
- 自然環境（寒い、雪が降る、冬が長い）
- 人付き合い（不安〔友人が少ない・離れる、人間関係を作れるか〕、地域性〔地域

のしがらみ、濃すぎる人間関係))

- 生活スタイル (単調な毎日, 地方に行って楽しめるのか)
- 立地 (海外旅行に行きにくい, 首都圏に出にくい, 観光地が郊外に多い)
- ライフステージ (結婚のタイミング, 親の問題, お墓の問題)
- 住居 (住居の選択 [親と同居 or アパート or 一戸建て])
- 情報 (情報が少ない [車や住宅など生活に関する情報, 移住の成功例があるのか分からない])
- 相談 (相談先がわからない, 相談窓口が機能していない)
- 教育 (子どもの教育が不安)
- 家族 (家族を連れて行けるか不安, 配偶者が馴染めるか不安, 親との関係性)
- 移住支援 (移住支援が少ない, メリットを感じられない)

課題の解決策

- 仕事 (情報提供 [U I ターンに特化した求人サービス, 求人情報の見せ方の工夫 (面白さ・やりがいを感じられる見せ方), 成功事例の提供, 集約した情報提供 (理念, 具体的な仕事内容, 働いている人の声)], 就活機会の提供 [関東にいながら就活できる環境整備, 東京での説明会], 起業支援, 企業誘致, 在宅ワークの活性化)
- 移動 (交通費援助, バスの本数増加, 移住者向けペーパードライバー講習, カーシェアリング, 相乗りタクシー)
- 自然環境 (除雪, ロードヒーティング, 課外授業の実施)
- 人付き合い (地元の人とU I J ターン者との交流, 職場以外で関わることのできる友人をつくる)
- 経済性 (月々の収支の見える化, 収支のビフォーアフター見える化)
- 住まい・宿泊 (下見の時に泊まるホテルやシェアハウス, ゲストハウス)
- 補助 (ものでU I J ターンを引っ張ってはいけない, 研修費, 引越費用, 就職活動費 [交通費])
- 情報 (方法 [SNS, 発信力がある媒体増, プッシュ型情報発信], 内容 [U I J ターン経験・体験の共有 (本音を聞きたい, 帰って良かったこと, 悪かったこと, 改善してほしいこと), 教育・医療・生活情報, 任意団体の情報, 魅力の発信, ライフスタイル (タイムスケジュール)], 対象 [高校生への情報発信])
- 移住支援 (期間限定で暮らしてみることができると制度, 受け入れ体制の整備, モデルツアー)
- 交流 (ワークショップの継続, 関東で情報交換ができる場, 若者交流の場, 気軽な集まり, 県外移住者のコミュニティ)
- 相談 (相談できる場の設置 (移住検討者向け, 既移住者向け), 先輩移住者に相談できる場の設置)
- 趣味嗜好 (既にある地元チームを盛り上げる)
- 人材 (優秀な人材の育成・活用)
- 資源活用 (長所の活用, 県人会など組織を活用 [組織を通じて商品のPR])

- 家族（奥さんを説得できる材料が必要，奥さんが楽しめるまちづくり）
- ターゲットを絞る（子育て世代）

移住したい人を支援する方法（Iターン）

- 出会い・交流（盛岡女子との出会い，コミュニティ支援 [移住先の知り合いが欲しい，Iターン者同士の交流会]）
- 仕事（起業支援，就職支援 [採用情報の口コミ紹介，都内での説明会（ニコニコ動画など），中小企業の情報提供]，岩手の会社とフリーで仕事したい [小口の仕事案件の紹介]，リモートワークしやすいTV会議システムなどの普及）
- 情報（生活費のシミュレーション，情報コミュニティ）
- 移動（新幹線代補助，車が無くても移動できる取組）
- 自然（寒さ対策，雪対策）
- 家族（東京に残す親への心配に関する対応）
- コンシェルジュ設置（おせっかいをしてほしい，仕事さがし，保育所さがし，家さがし）
- 多地域居住できる環境づくり（シェアハウス，数%住人 [月に1回とか] になれる環境づくり，半岩手半東京支援）

移住者を呼び込むための方法

- 大きなストーリーを提示できること（南部鉄器を救え，さんさ太鼓をすくえ）
- 地方都市がマニアックな分野に特化する
- 子どもの疎開・代わりに育てる（数年とか）
- Iターンの目的づくり（このためにIターンしましょう！という情報発信）
- ナイナイのお見合い大作戦の逆バージョン！（男性が都会に来て，女の子をさらっていく）

盛岡市の好きなところ

- 食事（食事・水がおいしい，おいしい店が多い，お勧めの食べ物 [お酒・福田パン・よせ豆腐・焼肉・わんこ蕎麦・じゃじゃ麺・冷麺・魚・米・南部せんべい]）
- 食材（新鮮 [野菜・魚]，安い，山菜が取れる）
- 気候（四季のメリハリ，季節の中で見せる表情，暑すぎない，雪が降る）
- 自然（大自然がある，ウィンタースポーツができる，温泉が多い，良い空気と広い空，星空）
- 自然景観（景色がいい [川が魅力的・岩手山・岩山・高松の池]，町中なのに鮭がのぼる）
- 街並み（市街地と自然の両立，住み分けができていて，街のバランスが良い，レトロな街，城下町，歴史的建造物が多い，カフェが多い，オシャレ雑貨屋がある，岩手公園）

- 利便性（程良い地方都市 [都会すぎず田舎すぎず]，適度な大きさ・コンパクトシティ [自転車移動が便利]，新幹線が停まる）
- 立地（東京から近い [2時間10分]，岩手県内へのアクセスが良い，高速ICに近い）
- 生活環境（夜が静か，人混みが少ない）
- ふるさとである（実家 [家]・出身校・身内・友人がいる，居場所がある，故郷の良さを再確認 [実はつながっていた，近所付き合いは良い]）
- 人柄（温かい，穏やか，優しい，誠実，安心，譲る人が多い，ガードが固い，ガンコ）
- 経済性（物価が安い，あまりお金を使わなくてすむ）
- 雰囲気（のんびりしている，せかせかしていない，静かな時間がある，時間の流れが緩やか）
- 歴史・文化（伝統・文化・歴史がある，文化的土壌が身近に点在している [こじんまりした映画館，演劇，ライブ・ロックフェス，楽器人口が多い]，偉人が多い，お祭りが良い [さんさ踊り・チャグチャグ馬っ子・秋まつり（盛岡山車）]，南部鉄器）
- 子育てのしやすさ（子育て環境に最適，まわりが助けてくれる）
- 仕事（ニアショア展開する上で穴場，ちょっと地元で活動するだけで名士になれる）
- 行政（身近，意見が反映されやすい）
- 防災・災害（被害が大きくなりにくい）

長所の活用

- まずは来盛（一度来ることで良さを実感できる，都会とのスピード感が違うことを言葉で伝えるのは難しい）
- 地道に口コミ（友人になって良さを伝えていくのが確実，口コミによってポスターなどの効果が出るのでは）

2 結婚・出産等に係る意識調査結果

【アンケート調査】

- 対象者 盛岡市に住民登録のある満20歳以上50歳未満の市民 2,004人
- 方法 無記名方式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- 期間 平成27年7月1日から7月31日まで
- 回収状況 有効回答率32.3%
- 回答者の基本属性
 - ・〔性別〕 男性39.1% 女性60.9%
 - ・〔既婚・未婚の別〕 未婚29.3% 既婚66.8% 離別死別3.9%
 - ・〔年齢〕 20-24歳12.7% 25-29歳16.6% 30-34歳13.4% 35-39歳20.0%
40-44歳17.9% 45-49歳19.4%
 - ・〔居住形態〕 持ち家(戸建)29.0% 持ち家(集合住宅)4.2% 賃貸(戸建)6.5%
賃貸(集合住宅)31.8% 社宅・官舎5.7%
親の持家あるいは賃貸住宅に同居22.2% その他0.5%
 - ・〔勤務形態〕 正規採用48.9% 派遣・契約等8.9% パート・アルバイト14.9%
会社役員1.9% 自営業主・家族従業員5.4% 家事10.2%
無職4.3% 学生5.4%
 - ・〔年収〕 なし17.4% 100万円未満12.6% 100万円以上200万円未満16.5%
200万円以上300万円未満16.3% 300万円以上400万円未満13.5%
400万円以上500万円未満8.4% 500万円以上600万円未満5.6%
600万円以上700万円未満3.7% 700万円以上800万円未満3.3%
800万円以上900万円未満0.8% 900万円以上1000万円未満0.6%
1000万円以上1.2% 不詳0.2%

【ヒアリング調査】

- 対象者 盛岡市に本拠を置く団体及びその構成員 6団体
少子化対策に関する専門家 1人
- 方法 訪問による聞き取り

【グループインタビュー】

- 対象者 アンケート調査で参加を希望した市民 13人
- 方法 グループインタビュー方式による聞き取り

【調査結果の概要】

(1) 結婚

① 結婚の予定と願望

7割以上が交際相手なし

未婚者に結婚の予定の有無等を尋ねたところ、26.7%の人が交際中で、結婚の予定があると答えている。

一方、回答者の73.3%が「現在交際している人がいない」と答えている。

図－資 22 結婚の予定の有無



交際相手「なし」より「あり」の方が結婚願望が強い

交際相手がいる人といない人の結婚願望を比較したところ、「結婚したい」と答えた人の割合が、交際相手なしが17.9%だったのに対し、交際相手ありが41.8%と、結婚願望が高い傾向がある。

一方、交際相手なしの人は、「結婚したいと思わない」「いずれは結婚したいがしばらくは今のままでいたい」と答える人の割合が、交際相手ありの人より高い傾向がある。

図－資 23 交際相手の有無による結婚願望の比較

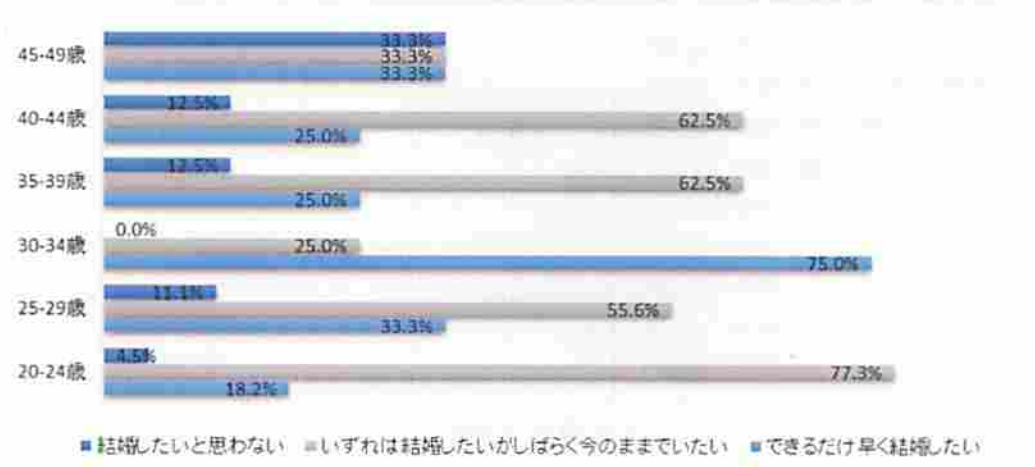


交際相手ありの結婚願望は30代前半がピーク

結婚したいと思うかどうかを、交際相手ありと交際相手なしの年代別に比較したのが、以下の表である。

交際相手ありの年代別結婚願望度は、30歳から34歳の30代前半に突出して高まっている。

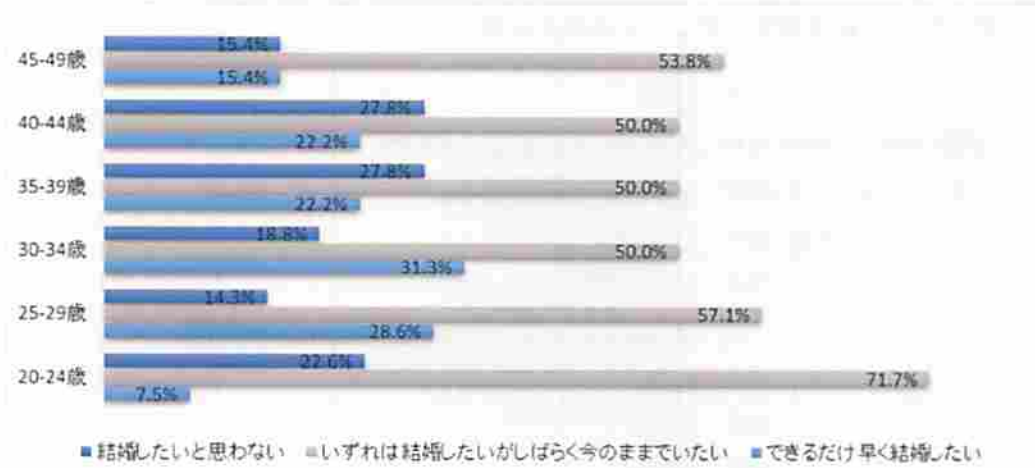
図一資 24 交際相手ありの年代別結婚願望の状況



交際相手なしは総じて「今のまま」を選択

交際相手なしの年代別結婚願望度をみると、各年代で「いずれは結婚したいがしばらく今のままでいたい」が高い割合を示している。

図一資 25 交際相手なしの年代別結婚願望の状況



②結婚相手の望むこと

結婚相手に望むことのトップは「人柄」

結婚相手に望むことを尋ねたところ、「人柄」「家事・子育てに対する理解」「収入」「自分の仕事に対する理解」の順となった。そのうち、特に重視することは「人柄」で、4割以上の人が重視している。

図一資 26 結婚相手に望むこと



女性が2番目に重視するのは「収入」、男性は「自分の仕事に対する理解」

男女とも「人柄」が最も多かったが、次が男性は「自分の仕事に対する理解」「容姿」だったのに対し、女性は「収入」「家事・子育てに対する理解」が続いた。

特に、未婚女性の場合、「収入」を望む人が7割を超えている。

図一資 27 結婚相手に望むことの男女比較



③結婚できなかった理由・しない理由

結婚できなかった理由は出会いがなかったこと

結婚を望みながら、これまで結婚できなかった理由を尋ねたところ、男女ともに「出会いの場がないから」と「結婚したいと思える人とめぐり会えないから」が多かった。

図一資 28 結婚を望みながら結婚できなかった理由



しばらく今のままでいたい理由は自分の時間を自由に使いたいから

いずれは結婚したいがしばらく今のままでいたい理由を尋ねたところ、男性では「自分の時間を自由に使いたい」「結婚の資金が足りない」が最も多く、次いで「現在の仕事に集中したい」「自分のお金を自由に使いたい」「相手とのコミュニケーションに自信がない」が多かった。

一方、女性では「自分の時間を自由に使いたい」「現在の仕事に集中したい」が4割を超え、次いで「自分のお金を自由に使いたい」「妊娠・出産・子育てに不安がある」が多かった。

男女別の特徴として、男性は「相手とのコミュニケーションに自信がない」が多く、女性では「妊娠・出産・子育てに不安がある」が多かったことがあげられる。

図一資 29 今は結婚しない理由



結婚したくない理由は自分の時間・お金を自由に使いたいから

結婚したいと思わないと答えた人に理由を尋ねたところ、「自分の時間を自由に使いたい」が最も多く、次いで「自分のお金を自由に使いたい」「異性と一緒に暮らすのが煩わしい」「子どもを持ち、育てることが煩わしい」の順であった。

図-資 30 結婚したくない理由



男性は異性と暮らすこと、女性は子どもを持ち・育てることを煩わしいと考えている

結婚したくない理由を男女別にみると、男性は「自分の時間を自由に使いたい」に次いで「異性と一緒に暮らすのが煩わしい」と答え、女性は「自分のお金を自由に使いたい」に次いで「自分の時間を自由に使いたい」と「子どもを持ち、育てることが煩わしい」と答えている。

図-資 31 結婚したくない理由の男女比較



(2) 妊娠・出産

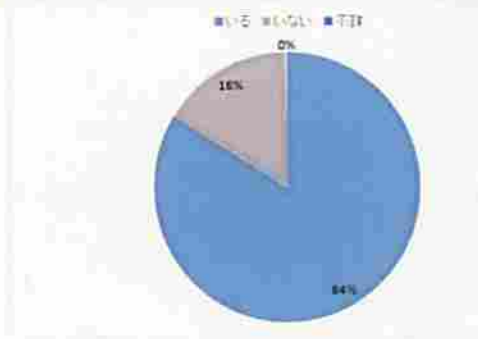
①子どもの数

子どものいる既婚者 8割超、平均子ども数 1.9人

既婚者で子どものいる人は84%、最も多い子ども数は2人であった。

子どものいる既婚者の平均子ども数は1.9人、子どものいない既婚者も含めると平均1.6人であった。

図一資 32-1 既婚者の子どもの有無



図一資 32-2 既婚者の子ども数の分布

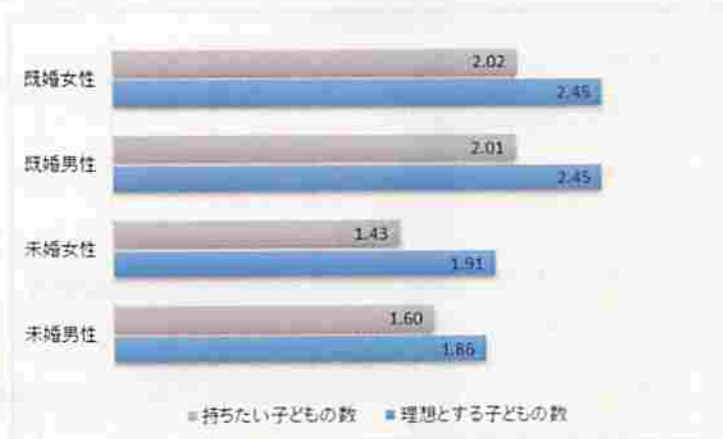


理想の子ども数と予定の子ども数の平均値の差は0.4人

理想的な子ども数と現実に持ちたい数の平均（子どもはいらないと答えた回答者を含む）は、理想的な子ども数が2.3人、現実に持ちたい子ども数が1.9人であった（子どもを持ちたい人だけの平均はそれぞれ2.4人と2.1人）。

未婚・既婚別では既婚者の方が、男女別では男性の方が、理想的な子ども数・現実に持ちたい数ともに多いことがわかる。

図一資 33 理想とする子どもの数と現実に持ちたい子どもの数



さらに子どもを持ちたいという願望は男性が強い

現在の子どもの数が理想的な子ども数より少ない人に今後の妊娠・出産の希望を子どもを尋ねたところ、「考えている」が44.2%、「考えていない」が55.8%であった。

男女別にみると、女性の方が「考えていない」率が高い。

図一資 34 今後の妊娠・出産の願望



②子どもを持たない理由・持ちたくない理由

子どもを持たない理由は年齢と経済的理由が高い

今後の妊娠・出産を考えていない理由を尋ねたところ、「年齢的に妊娠・出産は難しい」「これ以上の子育ては経済的に難しい」が6割以上を超えている。

そのうち、最も大きな要因は経済的な理由であった。

図一資 35 今後の妊娠・出産を考えていない理由

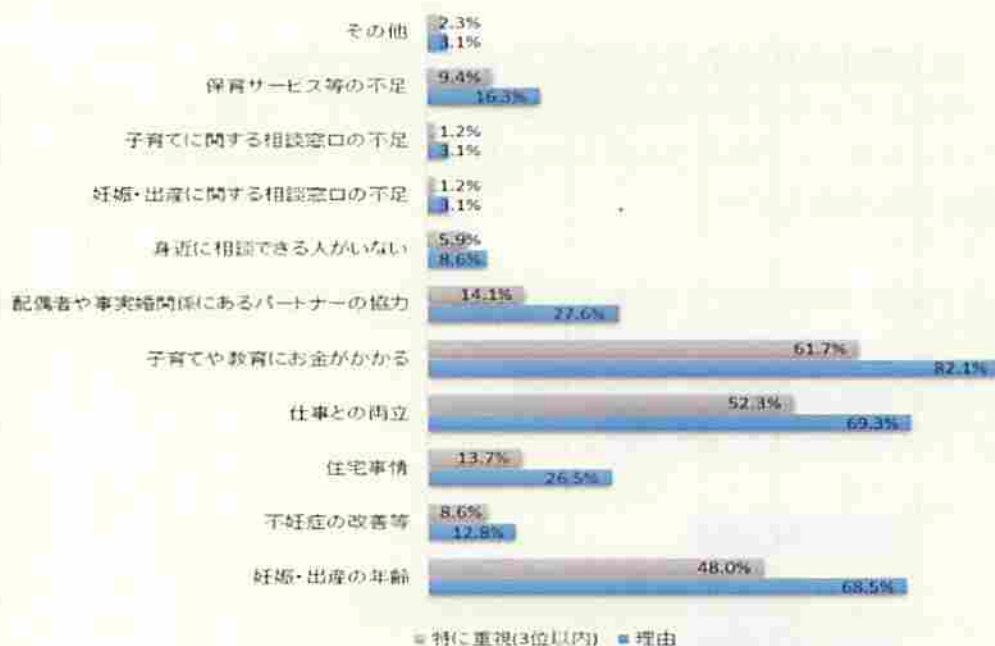


妊娠・出産を考える上での不安は子育て費用や教育費

現在子どものいない人に妊娠・出産を考える上での不安について尋ねたところ、子育てや教育にかかる経済的負担や、年齢的な不安、仕事との両立が上位を占めた。

そのうち、最も重視された要因は、子育てや教育にかかるお金への不安、仕事との両立で回答者の5割を超えている。

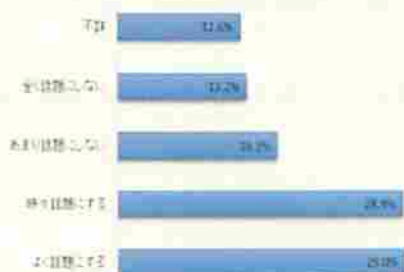
図一資 36 妊娠・出産を考える上での不安要因



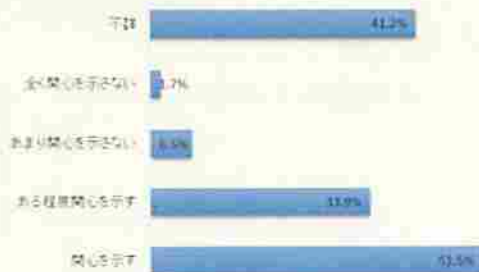
妊娠・出産・子育てについて話題にする人は5割以上、8割以上が関心を示す
 交際相手や配偶者と妊娠・出産や子育てについて話題にするか尋ねたところ、「よく話題にする」「時々話題にする」が半数を超えた。

話題にした時の相手の反応は、8割以上が「関心を示す」あるいは「ある程度関心を示す」結果となった。

図一資 37-1 話題の有無



図一資 37-2 関心の有無



〈参考〉

理想とする子どもの数について、明治安田生活福祉研究所が平成 26 年 8 月に発表した「第 8 回結婚・出産に関する調査」では、震災後に増加傾向にあり、調査時点での平均数は 2.35 人という結果が出ている。

平成 26 年 3 月に報告された内閣府の「家庭と地域における子育てに関する調査」では、希望する子どもの数は男性が 2.1 人、女性が 2.3 人という結果が示されている。

20 代前半女性の子どもの持ちたくない割合が高い

理想とする子どもの数を尋ねた設問への回答で、20 歳から 24 歳の女性で「子どもはらない」と答えた人が 15%を超えている。実際に持ちたい子どもの数でも同様に 15%を超えている。

図一資 38 理想的な子どもの数で「いない」と答えて 20 代から 30 代前半の割合



③ 希望出生率

本アンケート調査結果から得られる盛岡市の希望出生率は 1.75

民間団体の日本創成会議が「ストップ少子化・地方元気戦略」で示している計算式に基づき、本アンケート調査結果から得られた数値により、盛岡市の希望出生率を計算すると次のとおりとなる。

〈希望出生率計算式〉 = (既婚者割合 × 夫婦の予定子ども数 + 未婚者割合 × 未婚結婚希望割合 × 理想子ども数) × 離別等効果 (0.938)

〈盛岡市の希望出生率〉 = (66.8% × 1.88 + 33.2% × 81.1% × 2.26) × 0.938
= 1.75

(3) 子育て

①利用した子育て支援制度等

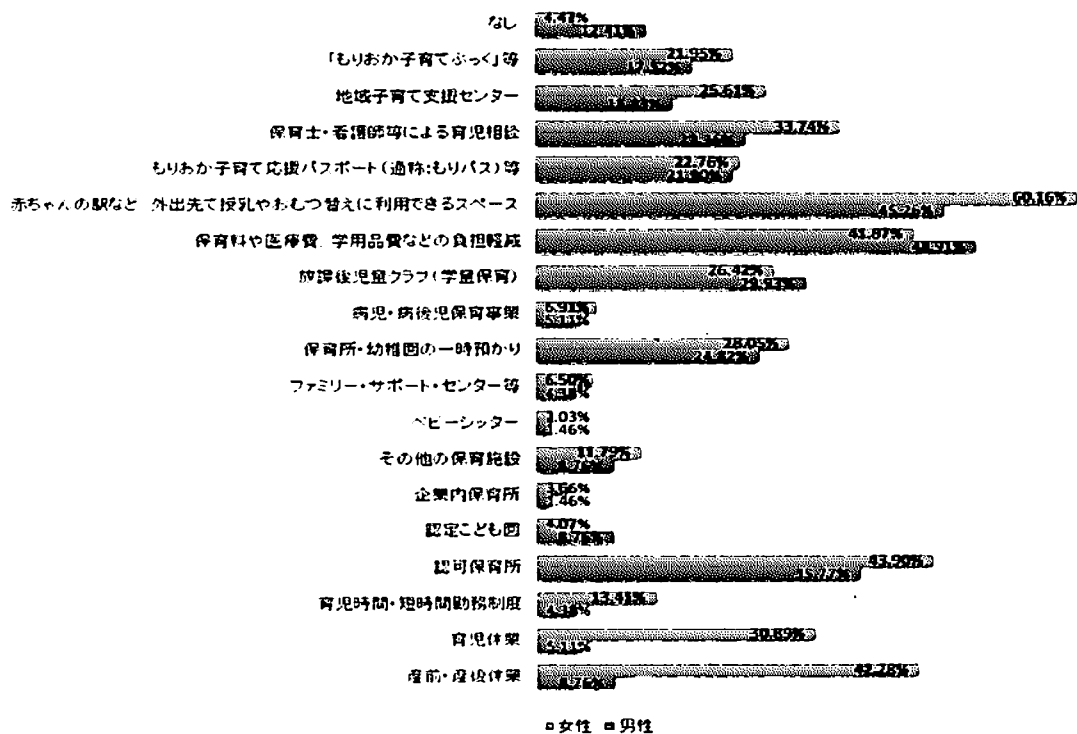
男性の産休・育休は実績少なく

これまで利用した子育て支援制度やサービスは、女性では外出先でのおむつ替えスペースが最も多く、男性では保育料等負担軽減が最も多かった。

保育施設では認可保育所の利用が最も多く、一時預かりや学童保育施設の利用も3割近くある。

産前産後休業や育児休業、育児時間・短時間勤務制度の利用は女性が多く、男性の利用は進んでいない。

図一資 39 これまで利用した子育て支援制度・サービス



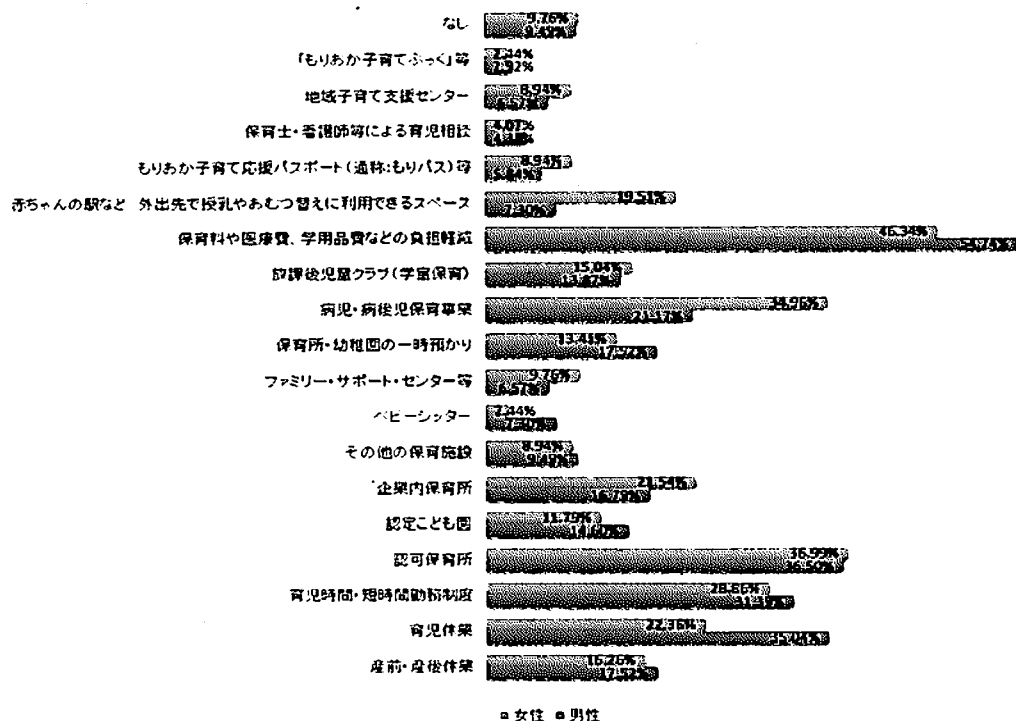
②不足している子育て支援制度等

負担軽減策と病児・病後保育、認可保育所が不足

不足していると感じている子育て支援制度・サービスでは、保育料や医療費、学用品費などの負担軽減策が最も多く、次いで認可保育所や、育休や短時間勤務といった職場での支援環境が続く。

病児・病後児保育が、前項の利用実績に比べ男女ともに高くなっている。

図一資 40 不足している子育て支援制度・サービス



〈参考〉

病児・病後児保育の充実を求める声は、ヒアリング調査やグループインタビューでも出されている。

また、明治安田生活福祉研究所が平成 26 年 8 月に発表した「第 8 回結婚・出産に関する調査」でも、「充実させてほしい保育サービス」として報告されている。

③ 今後利用したい子育て支援制度等

女性に支援制度・サービス全般に関心、男性も産休・育休に関心

今後妊娠・出産や子育てを考える場合の、利用したいと思う子育て支援制度・サービスは、女性では産休・育休が最も多く、男性では保育料や医療費、学用品費などの負担軽減策が最も多い。

特徴的なのは、女性が支援制度・サービス全般に関心を示していることと、男性が産休・育休など企業内の支援環境に関心を寄せていることである。

図-資 41 今後利用したい子育て支援制度・サービス



3 新しい総合計画策定に向けたアンケート調査（抜粋）

- 調査対象者 盛岡市に住民登録のある満20歳以上の市民 3,000人
(平成25年7月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出)
- 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- 調査時期 平成25年8月30日から9月20日まで
- 調査結果（抜粋）

少子化対策として何が必要だと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

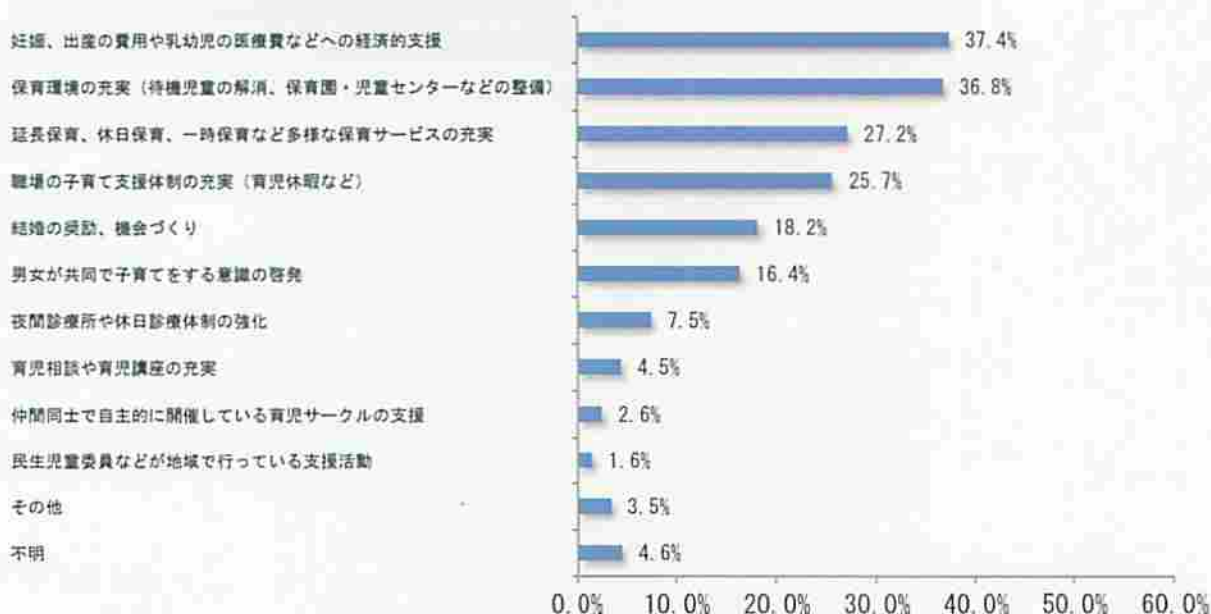
●「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」が最も多い（37.4%）

「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んだ人が最も多く、次いで「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」となっています。

前回調査と比較すると、「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」は、今回の調査でも多くの人を選んでいました。

「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」が、8.7%上昇し36.8%と、高い割合で選ばれています。

図 - 資 42 少子化への対応（回答者数 1,223 人）

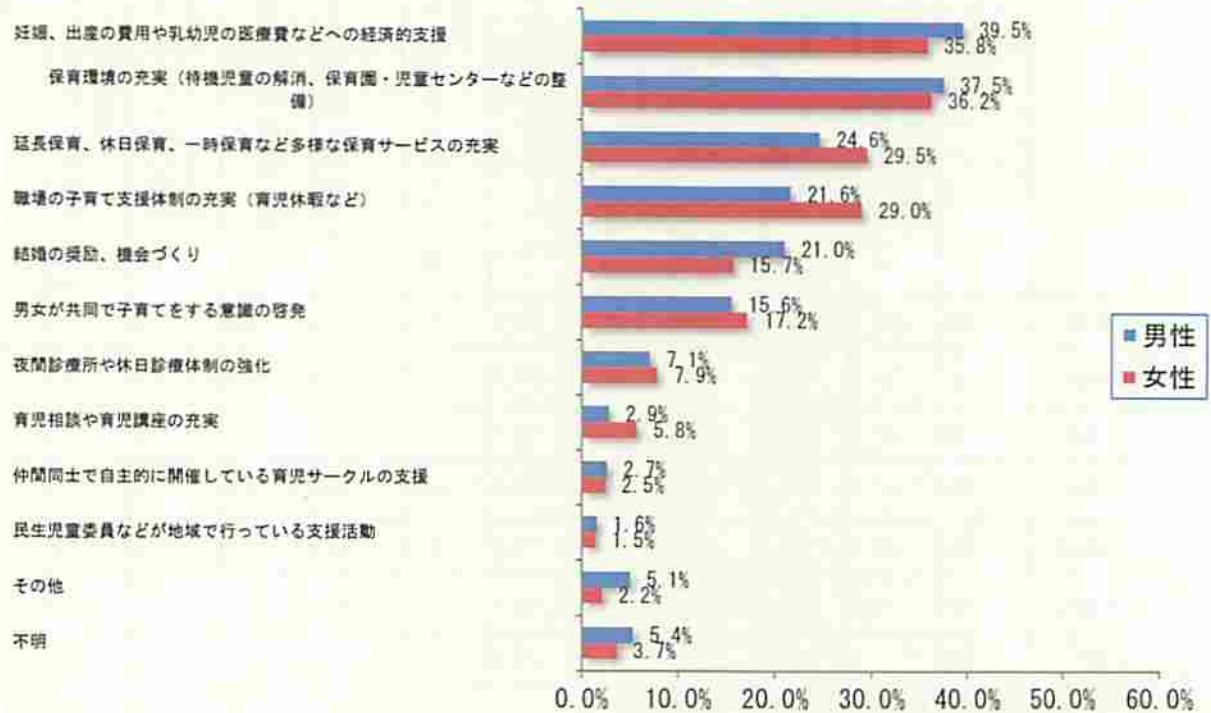


◆性別

男性は、女性と比べて「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。

女性は、男性と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」や「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

図一資 43 少子化への対応・性別（回答者数 男性 552人 女性 668人）



◆ 年代別

各年代でほぼ同様の傾向となっていますが、20歳代では、他の年代と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」よりも「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

表一資 44 少子化への対応（年代別）

	回答者数(人)	単位 (%)													
		妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	の整備	保育環境の充実(待機児童の解消、保育園・児童センターなど)	実	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	(育児休暇など)	職場の子育て支援体制の充実	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意識の啓発	強化	夜間診療所や休日診療体制の強化	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行っている支援活動
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6		
20歳代	97	51.5	28.9	17.5	35.1	16.5	16.5	3.1	7.2	2.1	1.0	3.1	4.1		
30歳代	188	45.7	37.8	32.4	27.7	9.6	19.1	4.3	3.2	0.5	0.5	5.3	3.2		
40歳代	218	33.5	39.4	31.2	25.7	18.3	15.6	8.3	4.1	2.3	0.5	5.5	1.4		
50歳代	206	35.4	39.8	25.7	24.8	17.0	12.6	6.3	5.3	3.9	1.0	3.4	7.8		
60歳代	268	34.0	38.8	28.0	24.6	20.1	17.2	8.6	5.6	2.6	1.1	3.4	4.1		
70歳以上	242	34.3	31.8	24.4	22.3	24.0	17.8	11.2	2.9	3.7	4.5	0.8	6.2		

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

◆ 居住地区別

上位4項目は、各地区で多くの人を選んでいますが、玉山地区では、「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が8.1%と低くなっており、代わりに「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。

表-資 45 少子化への対応（居住地区別）

	回答者数(人)	単位(%)												
		妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	の整備	保育環境の充実(待機児童の解消、保育園・児童センターなど)	実	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	職場の子育て支援体制の充実(育児休暇など)	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意識の啓発	強化	夜間診療所や休日診療体制の充実	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行っている支援活動
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6	
河北	377	36.6	38.5	30.0	25.7	18.3	15.1	5.8	4.8	2.1	2.1	3.2	4.2	
河南	174	35.6	33.9	29.3	27.0	16.7	16.7	8.0	2.9	2.3	1.7	4.0	5.2	
盛南	193	35.2	41.5	25.4	27.5	13.0	20.2	10.4	5.7	2.1	2.1	2.6	3.1	
厨川	222	45.0	39.6	23.0	28.4	19.4	17.1	6.8	3.2	3.2	0.5	3.6	1.4	
都南	183	32.8	35.5	29.0	26.8	21.3	14.2	9.3	7.1	4.9	1.1	4.4	2.7	
玉山	37	45.9	24.3	27.0	8.1	35.1	18.9	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7	10.8	

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

4 町丁字別の人口増減の変化（変化率の高い順）

町丁字名	2006年	2015年	増減数	変化率
長橋町	828	2,353	1,525	284.2%
上ノ橋町	341	550	209	161.3%
盛岡駅前通	627	939	312	149.8%
本宮1～7丁目、向中野1～7丁目、北飯岡1～4丁目、本宮字、向中野字、飯岡新田	13,787	20,306	6,519	147.3%
津志田西1～2丁目	1,228	1,769	541	144.1%
志家町	669	950	281	142.0%
東安庭1～3丁目	2,017	2,716	699	134.7%
盛岡駅西通1～丁目	1,320	1,744	424	132.1%
門1～2丁目	1,420	1,724	304	121.4%
浅岸1～3丁目・浅岸字・加賀野字	2,727	3,286	559	120.5%
舟町	1,190	1,404	214	118.0%
津志田中央1～3丁目	2,324	2,725	401	117.3%
緑が丘1～4丁目	4,614	5,287	673	114.6%
天神町	680	775	95	114.0%
玉山区波民字	1,591	1,794	203	112.8%
中ノ橋通1～2丁目	770	867	97	112.6%
下太田	2,704	3,020	316	111.7%
前湯1～4丁目、上厨川字	1,442	1,596	154	110.7%
津志田町1～3丁目	1,187	1,309	122	110.3%
南仙北1～3丁目	4,559	4,994	435	109.5%
津志田南1～3丁目	1,820	1,958	138	107.6%
東見前	2,521	2,694	173	106.9%
神明町	518	551	33	106.4%
南青山町	1,423	1,510	87	106.1%
平賀新田字	265	281	16	106.0%
開運橋通	628	665	37	105.9%
中央通1～3丁目	1,853	1,949	96	105.2%
名須川町	1,192	1,251	59	104.9%
西見前	4,903	5,144	241	104.9%
大館町	1,972	2,067	95	104.8%
津志田	2,554	2,645	91	103.6%
永井	7,973	8,231	258	103.2%
大沢川原1～3丁目	1,128	1,151	23	102.0%
大通1～3丁目	848	864	16	101.9%
門字	265	268	3	101.1%
城西町	1,237	1,251	14	101.1%
加賀野1～4丁目	3,546	3,580	34	101.0%
本町通1～3丁目	4,597	4,634	37	100.8%
中堤町	2,504	2,519	15	100.6%
西仙北一1～2目	3,055	3,073	18	100.6%
夕顔瀬町	1,370	1,375	5	100.4%
みたけ1～6丁目	7,792	7,818	26	100.3%
南大通1～3丁目	2,283	2,290	7	100.3%
三本柳	6,807	6,825	18	100.3%
材木町	926	925	-1	99.9%
上堂1～4丁目	4,028	4,023	-5	99.9%
前九年1～3丁目	3,685	3,675	-10	99.7%
黒石野1～3丁目	3,756	3,730	-26	99.3%
黒川	2,968	2,946	-22	99.3%
東仙北1～2丁目	2,502	2,481	-21	99.2%
三ツ割1～5丁目	2,196	2,169	-27	98.8%
山王町	990	974	-16	98.4%
仙北1～3丁目	3,988	3,919	-69	98.3%
菜園1～2丁目	399	392	-7	98.2%
北天昌寺町	1,727	1,691	-36	97.9%
西下台町	1,382	1,338	-44	96.8%
安倍館町	1,157	1,117	-40	96.5%
下米内1～2丁目	1,437	1,387	-50	96.5%
鵜字	902	865	-37	95.9%
箱清水1～2丁目	1,813	1,738	-75	95.9%
若園町	489	468	-21	95.7%
玉山区芋田字	457	437	-20	95.6%
高松1～4丁目	6,021	5,756	-265	95.6%
小杉山	464	443	-21	95.5%
三ツ割字	800	763	-37	95.4%
上田字	769	733	-36	95.3%
山岸1～6丁目	6,917	6,584	-333	95.2%
長田町	1,133	1,072	-61	94.6%
天昌寺町	863	815	-48	94.4%
清水町	1,680	1,582	-98	94.2%
猪去	675	635	-40	94.1%
茶畑1～2丁目	2,131	2,003	-128	94.0%
西青山1～3丁目	7,235	6,772	-463	93.6%
境田町	1,702	1,584	-118	93.1%
中屋敷町	1,104	1,027	-77	93.0%
東中野字	1,982	1,842	-140	92.9%
中大田	1,914	1,774	-140	92.7%
玉山区好摩字	3,859	3,574	-285	92.6%
住吉町	1,052	972	-80	92.4%
上大田	2,123	1,960	-163	92.3%
北夕顔瀬町	1,174	1,080	-94	92.0%

町丁字名	2006年	2015年	増減数	変化率
上飯岡	989	909	-80	91.9%
東黒石野1～3丁目	1,428	1,310	-118	91.7%
上田壘1～2丁目	1,800	1,651	-149	91.7%
湯沢西1～3丁目	792	725	-67	91.5%
新田町	1,341	1,225	-116	91.3%
小島沢1～2丁目	2,957	2,701	-256	91.3%
館向町	1,951	1,775	-176	91.0%
愛宕町	1,163	1,058	-105	91.0%
盛岡駅前北通	1,513	1,376	-137	90.9%
大新町	1,518	1,379	-139	90.8%
玉山区下田字	3,568	3,241	-327	90.8%
東山一丁目	2,930	2,661	-269	90.8%
松園1～3丁目	3,332	3,024	-308	90.8%
下飯岡	1,222	1,108	-114	90.7%
下ノ橋町	675	612	-63	90.7%
内丸	266	241	-25	90.6%
東緑が丘	1,761	1,591	-170	90.3%
月が丘1～3丁目	6,279	5,654	-625	90.0%
神子田町	1,346	1,211	-135	90.0%
脊山1～4丁目	5,565	5,000	-565	89.8%
玉山区巻堀	284	255	-29	89.8%
上田1～4丁目	4,966	4,451	-515	89.6%
上鹿妻	825	738	-87	89.5%
乙部	2,699	2,403	-296	89.0%
岩清水	473	421	-52	89.0%
北松園1～4丁目	4,451	3,959	-492	88.9%
八幡町	904	804	-100	88.9%
上米内字	1,480	1,316	-164	88.9%
湯沢	929	824	-105	88.7%
北山1～2丁目	1,811	1,603	-208	88.5%
高崩	42	37	-5	88.1%
手代森	2,657	2,339	-318	88.0%
東新庄1～2丁目	1,465	1,289	-176	88.0%
羽場	966	849	-117	87.9%
根田茂	66	58	-8	87.9%
桜台1～3丁目	3,147	2,762	-385	87.8%
湯沢南1～2丁目	1,405	1,232	-173	87.7%
新庄町	567	497	-70	87.7%
川目	1,314	1,149	-165	87.4%
紺屋町	532	463	-69	87.0%
下鹿妻字	500	435	-65	87.0%
中野1～2丁目	1,863	1,610	-253	86.4%
馬場町	868	750	-118	86.4%
東中野町	935	807	-128	86.3%
西松園1～4丁目	3,275	2,823	-452	86.2%
東松園1～4丁目	4,092	3,527	-565	86.2%
東安庭字	420	361	-59	86.0%
つつじが丘	1,516	1,291	-225	85.2%
玉山区門前寺字	239	203	-36	84.9%
厨川1～5丁目	6,249	5,300	-949	84.8%
鉦屋町	790	670	-120	84.8%
東桜山	509	431	-78	84.7%
玉山区川崎字	188	159	-29	84.6%
玉山区寺林字	291	246	-45	84.5%
山岸字	369	310	-59	84.0%
紅葉が丘	907	757	-150	83.5%
松尾町	706	589	-117	83.4%
川目町	693	577	-116	83.3%
土淵字	433	360	-73	83.1%
下米内字	330	274	-56	83.0%
稲荷町	732	607	-125	82.9%
玉山区松内字	306	251	-55	82.0%
大慈寺町	160	130	-30	81.3%
玉山区日戸字	489	397	-92	81.2%
玉山区永井字	340	274	-66	80.6%
大ヶ生	413	331	-82	80.1%
梨木町	835	667	-168	79.9%
玉山区馬場字	514	409	-105	79.6%
玉山区川又字	513	407	-106	79.3%
湯沢東1～3丁目	1,228	972	-256	79.2%
玉山区玉山字	679	537	-142	79.1%
築川	100	78	-22	78.0%
玉山区上田字	40	31	-9	77.5%
玉山区藪川字	346	257	-89	74.3%
岩鷲町	988	720	-268	72.9%
砂子沢	151	100	-51	66.2%
新庄字	291	188	-103	64.6%
流通センター北一丁目	235	133	-102	56.6%
下厨川字	527	254	-273	48.2%
合計	294,918	294,072	-846	99.7%

出所：住民基本台帳（2006年1月末及び2015年3月末）より本市作成